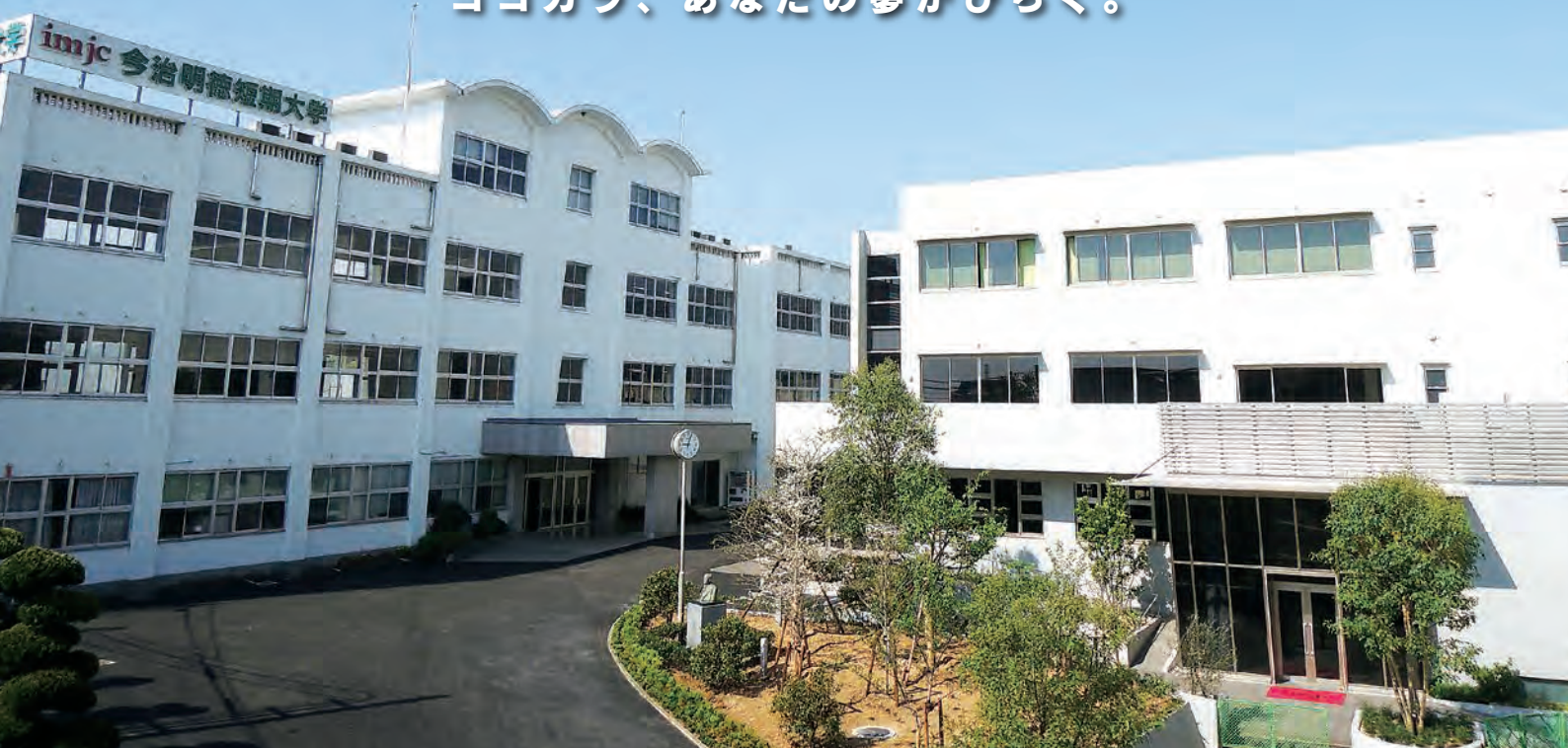


今治明德短期大学 地（知）の拠点整備事業

平成26年度活動報告書

ココカラ、あなたの夢がひらく。



目 次

はじめに	2
学長あいさつ	3
市長あいさつ	4
今治市	5
今治市紹介	6
事業概要	9
取組図	10
事業構成図	11
採択事業名	13
事業組織・連携図	13
今治市—明德短期大学の連携図	14
活動報告	15
活動名 ①ふれあいの場（地域の子育て広場）活動	16
活動名 ②児童・障がい者・高齢者の共同学びの場活動	23
活動名 ③歴史文化の集積と発信活動	26
活動名 ④文化の継承を老から幼へ活動	28
活動名 ⑤『お接待』等の「ボランティア養成講座」開催	31
活動名 ⑥島四国八十八カ所への地域開発発想バリアフリーマップ作成	34
活動名 ⑦「特産品開発講習会」活動	36
活動名 ⑧「家族の料理、菓子教室」活動	39
活動名 ⑨「子どもを対象とした食育講座」開催	42
活動名 ⑩「中高年対象の栄養・健康講座」開催	45
第三者評価	49
第三者評価委員会	50
参考資料	53
アンケート調査結果	
めいたんパークリーフレット	

はじめに

今治明德短期大学は、今治市と連携し、「しまなみの生活と文化を守りそだてる人づくり・つながりづくり」を掲げて平成26年度地（知）の拠点整備事業に取り組みました。

本学はもともと深く専門の学芸を教授研究し、職業または実生活に必要な能力を育成することにより、地域に根ざしつつ人類の文化と福祉の発展に貢献することを目的としております。近年は地域に貢献できる人材として、建学以来の精神である実践的で専門的な教育に加え、地域で活躍できる為の資格取得を目指して学生の育成に努めてまいりました。

今回、地（知）の拠点整備事業に申請するに当たり改めて地域の現状と特色に鑑み、本学の教育内容と密接にかかわる4事業10活動を掲げました。実際に活動を始めるとかなりの紆余曲折もありましたが、事業計画を教職員・学生が一つとなって取り組むことが出来たと考えています。ことに、地元の人々とふれあう学生の顔が生き生きとしていたことが印象的でした。

年度途中の採択ということもあり、充分満足な活動成果があったとは言えませんが、こうして1年の活動を纏める事が出来ました。ご協力いただいた皆様に心より感謝申し上げます。平成27年度からは、学生の1年入学時から地域を学ぶ「地域交流実践演習」の授業を取り入れております。地（知）の拠点整備事業に、より自主性を持って活動できるよう全学あげて邁進してゆきます。関係の皆様には今後ともご支援、ご助力を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

今治明德短期大学

地（知）の拠点整備事業推進室長

ライフデザイン学科准教授 泉 浩 徳

学長あいさつ



野口 学

このたび、今治明德短期大学は、平成26年度文部科学省「地(知)の拠点整備事業(大学COC事業)」に採択されました。26年度における短期大学の採択は、本学のみであります。これまでの本学の教育・研究活動を評価していただいた結果であると感謝しております。

事業は、本学が所在する今治市と連携して推進しています。今治市は、古くから全国有数の造船、タオル生産の町として有名であります。また、緑豊かな島々、あざやかな青い海に囲まれた「しまなみ海道」があり、近年は、島と橋と海を備えたサイクリングロードの町として注目を浴びております。

しかし、いずれの地方もそうでありますが、今治市にあっても、なかでも島しょ部、山間部において高齢化、過疎化が進んでおり、これらへの対応が喫緊の課題となっております。

本学は、これら地域の課題を念頭におき、地域に貢献できる人材の育成、また、地域に立脚した高等教育機関として保育、福祉、食の教育・研究に取り組んでまいりました。こうした長年、今治市と連携協力しながら行ってきた活動を、全学的な4事業10活動として再編しました。さらに、4事業10活動を「教育」「研究」「社会貢献」の視点からも構成し、活動の方向性を明確にしました。10活動の積極的展開により、本学の活動舞台である「しまなみ」の生活と文化を継承・発展させることのできる「人づくり」「つながりづくり」が進むものと考えております。

本事業は、今治市と連携・協力しつつ、また、地域の各分野のみなさまのご参加をいただき推進しております。地域のみなさまからのさらなるご支援・ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

市長あいさつ



菅 良二

今治市は12の市町村が一つになるという全国的にも有数の大合併を行い、瀬戸内海圏域の発展を担う、県下第2位、四国第5位の人口を誇る都市として発足し、今年1月で市制施行10周年を迎えました。

世界有数の集積を誇る海事産業や日本一の生産量のタオル産業でも知られている本市ですが、山間部や島嶼部など広い市域の中では人口減少、高齢化、過疎化などへの対応が喫緊の課題ともなっています。このような中、今治明德短期大学が「しまなみの生活と文化を守り育てる人づくり・つながりづくり」をテーマに「地(知)の拠点整備事業」としてこれら課題解決に取り組んでいただけることに対し、

感謝と大きな期待をしているところでございます。

また、今治明德短期大学は、福祉・栄養・調理・保育・教育などの分野において数多くの優秀な専門職業人を地域社会に輩出し続けられ、実習や体験学習など地域に出向いての活動が盛んに行われておりますことから、市民にとりまして親しみのある当地域の高等教育機関として高く評価されてもいます。

今後も今治明德短期大学との連携を通して、市民誰もが「住んでよかった」「これからもずっと住み続けたい」と感じられるまちづくりに取り組んでまいります。

今 治 市



imjc
IMABARI MEITOKU JUNIOR COLLEGE

今治市紹介

◇市の沿革

今治市は、古墳時代の多くの遺跡や、7世紀には伊予の国府が置かれていたことが示すように、古くから政治・文化の中心地でした。村上水軍が活躍した中世を経て、慶長5年(1600年)には、藤堂高虎公が関ヶ原の戦功によって20万3千石で「今張」の地に封ぜられ、築城、町割によって都市発展の礎を築くとともに、地名も「今治(いまばり)」としました。

中世以降、瀬戸内の要衝として栄え、四国最初の開港場・今治港を中心に発展した市街地と、固有の伝統・文化を受け継ぎながら特色ある島嶼部と陸地部、これらが平成11年5月の瀬戸内しまなみ海道(今治～尾道)開通により結ばれました。

生活圏域として一体感を増した当地域は、平成17年1月16日に12市町村による全国的にも稀な広域新設合併を成し遂げ、県都松山市に次ぐ第2位の人口規模、四国第5位の人口を有する新「今治市」が誕生しました。



◇産業

■新時代への挑戦

進取の気風と活力に満ちたこの地域の人々は、独自の産業や優れた文化を創出してきました。今治市は「タオルと造船」のまちとして多くの方に知られています。

今治タオル(国内生産量第1位・約5割のシェア)は、平成18年より国の支援を受けて、タオル業界や行政が団結し、地域が一丸となってJAPANブランド育成支援事業に取り組みました。国内外に通用するブランド化を目指し、ロゴ&マークの作製、タオルソムリエやタオルマイスター制度の創設、「5秒ルール」に代表される厳しい独自の基準作成などを行っ

てきました。地道な努力が実り、国内外において肌触りや吸水性の良さをはじめ、世界一の技術力をもって作られた高品質な今治タオルの認知度が上がりました。

今治市の製造品出荷額は1兆円規模で推移する四国最大の産業都市であり、それを支えているのが造船業です。14の事業所が立地し、建造隻数で国内の約19%（平成25年度実績）を占める日本一の集積地となっています。今治市に本社や拠点を置いている造船会社のグループ全体では、日本全体の30%（平成25年度実績）を超える船舶を建造しています。造船の町・今治市は12市町村の合併（海岸線総延長約341km）により、500社を数える造船業・海運業・船用工業の海事関連企業の一大集積地となりました。海に関する歴史・文化・産業などを活用したまちづくりとして、「今治海事都市構想」に取り組んでいます。そのひとつに、「一大海事産業の現場を擁する今治らしさを前面に出した」国際海事展・バリシップを開催しています。国際海事展として、日本では「シージャパン（東京）」と「バリシップ（今治市）」が交互に開催されており、今年5月には「バリシップ2015」が盛大に開催され、今治が海事一色に染まりました。



■今治オリジナルの躍進

今までは当たり前のように存在していた故郷の地域資源を再発見し、今治の元気を日本全国に発信したいという願いのもと、今治観光大使を務めるご当地キャラクター「バリィさん」がゆるキャラグランプリ2012で全国1位に輝き、ご当地グルメを通じた活動を行う「今治焼豚玉子飯世界普及委員会」がB-1グランプリで3位入賞するなど、明るい話題が続いています。

■サイクリストの聖地・瀬戸内しまなみ海道

美しい瀬戸内海に浮かぶ島々を結ぶ「瀬戸内しまなみ海道（約60km）」には、個性的な橋が架けられています。このルートの特徴は、全ての橋を徒歩・自転車で通行でき

ることです。瀬戸内海の多島美を楽しめ、世界有数の海上サイクリングコース（全長70km）として知られ、多くのサイクリストが集まっています。開通当初より、サイクリストにやさしい環境づくりとして、レンタサイクルシステムの充実や自転車道・案内サインの整備などを行ってきました。

現在、この地域が誇れる「瀬戸内しまなみ海道」をサイクリストの聖地として国内外に広めようと、愛媛県、広島県、関係市町が連携し取り組んでいます。平成24年5月には、世界最大の台湾の自転車メーカーを中心とした台湾のサイクリング団体と交流事業を実施しました。更には、昨年は「瀬戸内しまのわ2014」を開催し、そのメインイベントとして、しまなみ海道の自動車道部分を利用した約8千人規模の国際サイクリング大会を実施し、世界へ向けて情報発信をしました。



◇プロフィール

◆面積……………419.13km²

◆人口……………16万5,286人（平成27年3月31日現在）

◆世帯数……………75,359世帯（平成27年3月31日現在）

〔市町村合併〕平成17年1月16日、旧今治市、旧郡部11町村が対等合併

〔姉妹都市〕パナマ市（パナマ共和国）、レイクランド市（アメリカ合衆国フロリダ州）、尾道市（広島県）、太田市（群馬県）

〔特産品〕今治タオル、焼豚玉子飯、鉄板焼き鳥、菊間瓦、桜井漆器、大島石

〔観光〕今治城、大山祇神社、野間馬ハイランド、今治西部丘陵公園、タオル美術館、潮流体験、来島海峡展望館、亀老山展望台、鈍川温泉、湯ノ浦温泉、伊東豊雄建築ミュージアム、村上水軍博物館

〔イベント〕今治市民の祭り「おんまく」、瀬戸内しまなみ海道スリーデーマーチ、水軍レース大会、一人角力、継獅子

事業概要



imjc
IMABARI MEITOKU JUNIOR COLLEGE

取組図

大学等名：今治明德短期大学（連携自治体：今治市）
事業名：「地（知）拠点整備事業」

【取組概要】本学が今治市と連携し、建学の精神に基づき地域に根ざす大学として（1）人材の育成輩出と（2）知の共有と社会還元という二つの目的を（A）コミュニケーション能力を備えた人材育成（B）大学公開講座の強化「オープンカレッジ・公開講座」の展開、（C）様々な郷土文化・伝統という「知」の集積と保存を行い、それを伝承するという3つの目標を達成することにより実現する。
事業1から4の中から4事業10活動を行うことにより目標を達成し、学科コースの枠を超え協力しつつ今治市との包括連携協定のもと継続事業として実施する。

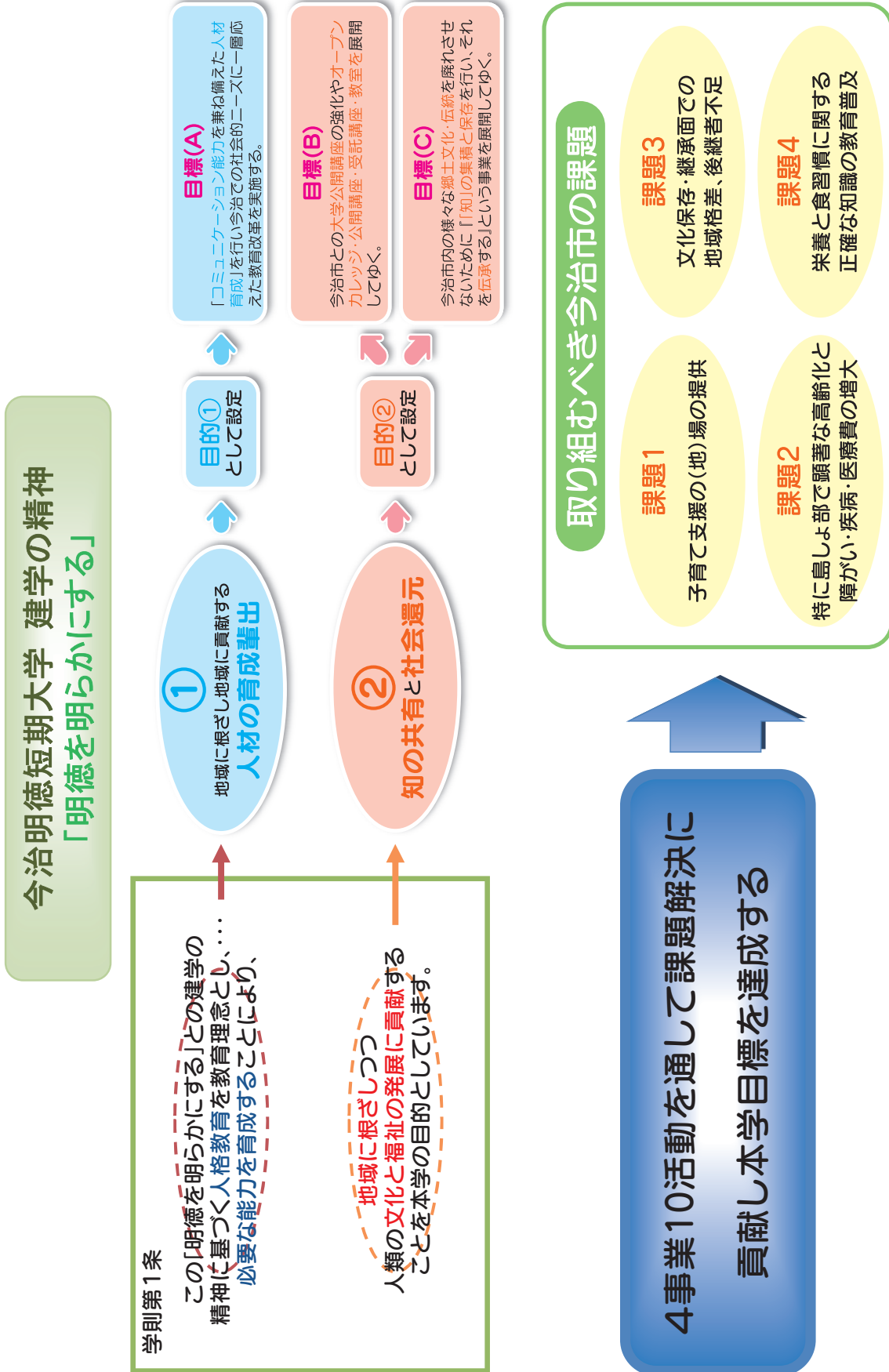


【事業の成果目標】

	26年度	30年度 (目標値)
地域に関心を有する学生の割合	45%	80%
連携自治体内での就職率	48%	70%
連携自治体を意識した教育	5%	10%
連携自治体の課題に関する研究	37%	75%

【期待される学内外・地域社会等への波及効果】
 (学内)：学科・コースの枠を超えた協力・交流の促進、全学が一丸となって取り組む意識の育成・向上。
 (学外)：地場産業への貢献。産学官連携のハブとしての役割の促進(地域社会)：教員・学生と市民の交流の場の増加による親しみやすく、開かれた大学としての認知度の向上
 (その他)：姉妹都市尾道(広島県)との交流、情報共有の増加

事業構成図



4 事業10活動

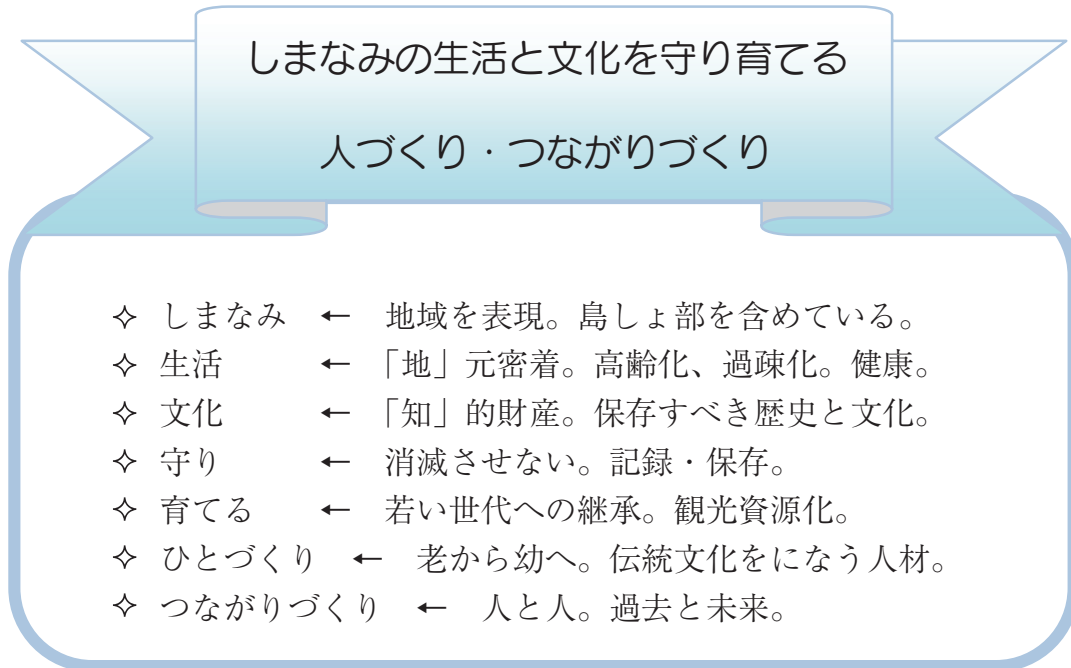
事業1 【幼児教育】 ふれあいの場共同学びの場 事業	取組課題① 達成目標 A, B	①ふれあいの場（地域育て広場）活動
		②児童・障がい者・高齢者の共同学びの場活動

事業2 【介護福祉】 福祉と障がいについての教育及び地域文化集積と伝承教育事業	取組課題②③ 達成目標 A, B, C	③歴史文化の集積と発信活動
		④文化の継承を老から幼へ活動
		⑤『お接待』等の「ボランティア養成講座」開催
		⑥島四国八十八カ所への地域開発構想バリアフリーマップ作成

事業3 【製菓製パン・調理師専修】 調理・製菓技能教育及び特産品開発支援と講習事業	取組課題③④ 達成目標 A, B, C	⑦「特産品開発講習会」活動
		⑧「家族の料理、菓子教室」活動

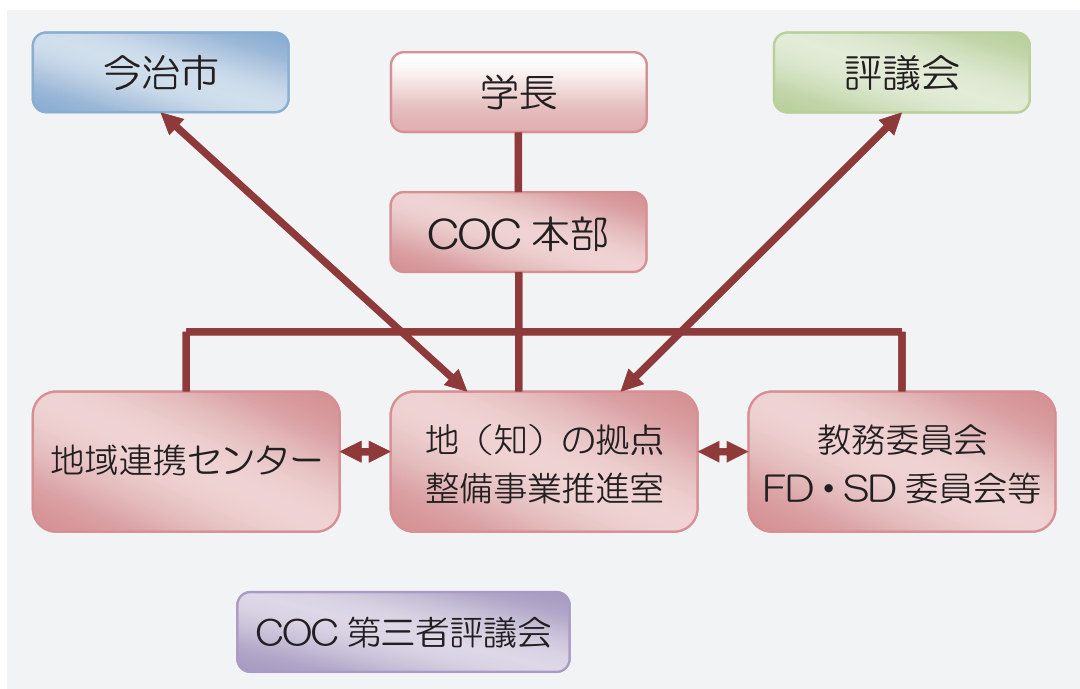
事業4 【食物栄養】 食育及び健康栄養教育事業	取組課題④ 達成目標 A, B	⑨「子供を対象とした食育講座」開催
		⑩「中高年対象の栄養・健康講座」開催

採択事業名

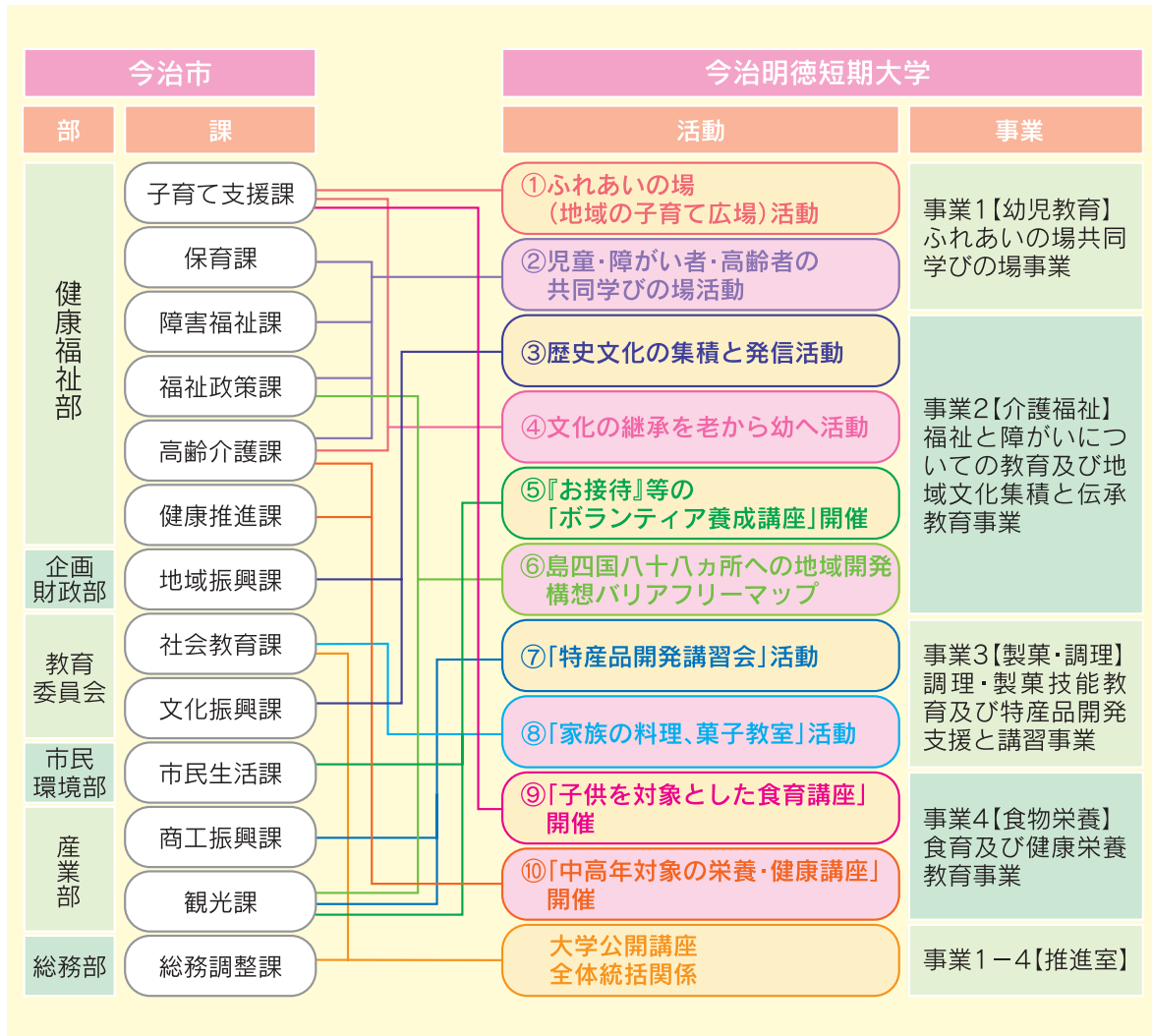


事業組織・連携図

今治明德短期大学 地(知)の拠点整備事業「しまなみの生活と文化を守り育てる人づくり・つながりづくり」は、学長のリーダーシップのもと、今治市や関係機関と連携して活動していきます。直接の活動拠点となるCOC本部は事業の検討・方針決定の場となり、推進室は事業・活動の調整の場となります。



今治市—明德短期大学の連携図



活動報告



imjc
IMABARI MEITOKU JUNIOR COLLEGE

事業名 ふれあいの場共同学びの場事業

活動名 ①ふれあいの場（地域の子育て広場）活動

幼児教育学科

今治市連携部・課 子育て支援課

課題及び目的

「今治市子ども子育て支援会議」による子育て中の保護者へのニーズ調査の結果、「親子が安心して集まれる公園等や施設の整備」が行政への要望の上位にあげられており、そのような「場（地）」の整備提供が課題となっている。これに応じて、子育て支援「楽しい遊び講座」及びキッズコーナーを併設した「地域の子育て広場」を開催する。

目 標

教育

学生たちが子どもと親の双方とコミュニケーションをとり、子育てについて親の抱える悩みや課題を知り、それを解決に導き安心させる能力を修得するために本活動を開催する。学生の専門性を高めるとともに、コミュニケーション力・課題解決力を増し加えるために授業の中で実際に体験させる。

研究

「地域の子育て広場」にて、地域の保護者と、遊びを企画する学生に対してアンケートによる受講前後の意識の変化等を把握する。本年度は、プレアンケート調査を行い、本調査への準備を進める。

社会貢献

- ① 市内の幼稚園、保育所から500人近い子どもたちが来場する予定である「学生発表交歓会」を行い、オペレッタ・歌などグループごとに学びの成果を発表する。
- ② 「幼稚園教諭免許状を有する者における保育士資格取得特例講座」「保育士資格を有する者における幼稚園教諭免許状取得特例講座」の平成28年度の実施に向け、ニーズの把握及び近隣大学との情報交換を行う。

目標達成度及び成果

教育

「地域の子育て広場」を週1回程度行い、子育て中の親子が多く参加した。学生が「手遊び」「読み聞かせ」「壁面製作」をグループで順番に担当し、実際に計画・実施することで専門性を高めることができ、グループでの課題解決力の向上につながった。遊びの中で親と子の双方と関わり、コミュニケーション力を高めることができた。

研究

- 1月13日に保護者向けのアンケートを実施。地域福祉論の授業を選択している学生が、アンケートの作成、実施を行った。当日、めいたんパークに参加した10名を対象とした。
- 1月26日に学生へのアンケートを実施。地域福祉論の授業を選択している学生14名を対

象とし、12人から回答があった。(各アンケート結果は一部後頁記載)

社会貢献

- ① 今治市内の幼稚園、保育所(園)より、児童544名、職員53名の参加となり、大盛況であった。
- ② 来年度、松山東雲短期大学にて上記特例講座を共同開催の予定があり、本学より3名の教諭が講義を開講する予定となっているほか、今治市内の幼稚園、保育所計49か所にニーズ調査依頼を発送し、41か所より返答があった。(ニーズ調査結果は後頁記載)

今後の課題及び展開

教育

学生自身が、主体的にこの事業計画を実行するプロセス体験が充分でなかったため、来年度は1、2年生合同でグループを編成し、学生が自主的、主体的に「楽しい遊び講座」を開催出来るように、授業カリキュラムを工夫する。

研究

- 保護者へのアンケートの実施について、冬季は欠席が増える傾向がある。出席者が減少することが予想されるため、来年度は年度初めの4～5月、年度終わりの2～3月の実施を検討し、中間で秋季に1度実施することも検討する。
- 学生アンケートについても、年度初め、年度終わりの2回の実施を予定し、受講前後の意識の変化等がより明確に分かるような項目を検討する。

社会貢献

- ① 市内幼稚園・保育所に限らず、地域の子育て広場「めいたんパーク」に参加している親子にも声掛けを検討する。
- ② 今治市内に限らず、東予地区全体へのニーズ調査の実施を検討し、近隣大学とも密に情報交換を行いたい。

活動実施内容

- 地域の子育て広場「めいたんパーク」開催の中で、親子を対象に「楽しい遊び講座」を実施。
- めいたんパーク参加の保護者アンケート及び学生アンケートの実施
- 平成27年1月30日(金)「学生発表交歓会」開催

詳細報告

学生のコメント

声掛けや配慮の仕方を実践的に学ぶことで、別の機会でも活かすことができ率先して行動することができるようになり、自身の支援方法の自信へと繋がった。この活動を通して学んだことを就職先や次のステージへ十分に活かせるよう今後も努力をしたい。



楽しい遊び講座

学生が保護者や子どもと関わりながら、ふれあい遊びの大切さを伝えるとともに、手遊びや読み聞かせも担当した。




めいたんパークの様子

学生が遊びの中で子どもと1対1で関わりながら、子どもを通じて保護者とも関わり、無理なくリラックスして会話することができた。



アンケート


めいたんパークについてのアンケート

問1 ご自身の年齢をお答え下さい。年齢10代～50代 () 代

問2 家族構成をお答え下さい。
 夫 (ご自身) 子ども()人 祖父 祖母 その他()

問3 お子様をどちらに行かせたいですか。
 1. 保育所 2. 幼稚園 3. 認定こども園

問4 めいたんパーク以外でどのような子育て支援に参加されているかお答え下さい。
 ()

問5 めいたんパークを知ったきっかけは何ですか。
 1. 児童館 2. 友人の紹介 3. チラシ・おたより その他()

問6 めいたんパークに参加しようと思ったきっかけをお答え下さい。
 ()

問7 どのコーナーが一番楽しいですか。
 1. 学生タイム 2. 楽しい遊び講座タイム(松田先生) 3. 児童館タイム

問8 今後、めいたんパークでお子様とどのような遊びをしたいですか。
 ()

問9 子育てに関することで、何か役立つことはありましたか。
 ()

問10 参加したことで子育てに対する気持ちの変化をお答え下さい。
 ()


回数	日程	内 容
1	10月21日	運動会ごっこ
2	10月28日	おもちゃ作り(はらべこあおむし)
3	11月4日	おもいほりあそび
4	11月25日	お豆塚さんごっこ
5	12月2日	小麦粉粘土あそび
6	12月9日	運動あそび(アースランド)
7	12月16日	おえかきハウス

問11 どのようなあそびが楽しかったですか。上記の予定表を参考に教えてください。
 ()

問12 今後、改善してほしい点や意見等、何かございましたらご自由にお書き下さい。
 ()

以上ご協力ありがとうございました。

保護者用アンケート


めいたんパーク意識調査アンケート

名前 _____

1. あてはまる箇所には○印を記入してください。
 例) 問1で「できた」と回答する場合・・・

質問	できた	ややできた	ややできなかった	できなかった
問1) めいたんパークに目的や目標を持って参加できましたか。	<input type="checkbox"/>			
1) めいたんパークに目的や目標を持って参加できましたか。				
2) 参加している幼児と積極的に関わることができましたか。				
3) 参加している保護者と積極的に関わることができましたか。				
4) ストップ(児童館、地の拠点)と積極的に関わることができましたか。				
5) 手遊び・読み聞かせ・壁面の春用紙を積極的に計画できましたか。				
6) 業者育成プログラム(松田先生)に積極的に参加できましたか。				

2. 参加者である保護者や乳幼児と関わって、どんなことを学びましたか。

3. 保護者や乳幼児と関わる際、気をつけたこと、工夫したことなどを教えてください。

4. 手遊びや読み聞かせの際、気をつけたこと、工夫したことなどを教えてください。

5. めいたんパークに参加しての感想や反省を記入してください。

学生用アンケート

2年次、地域福祉論の講義の中で、学生が主体となり、保護者アンケートの協議、作成、集計を行った。

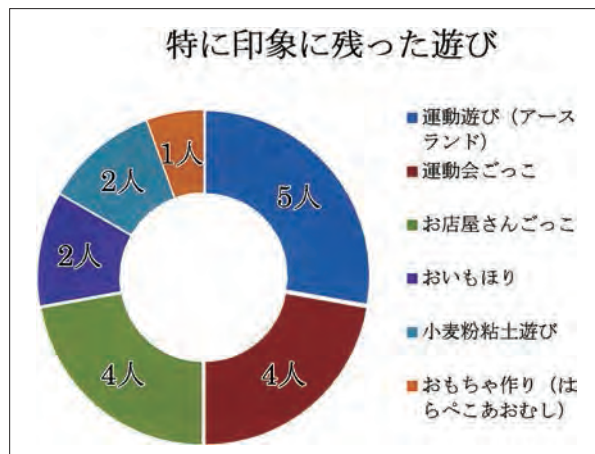


保護者対象アンケート結果

問10 参加したことで子育てに対する気持ちの変化をお答えください。

「気持ちが楽になる」、「外で遊ぶようになった」、「一緒に向かいあって遊ぶことで親も子どももストレスが減ったように感じる」、「楽しんで子育てができる」、「笑顔が増えた」、「息抜き」等の意見があった。めいたんパークに参加することで子どもとの関係がより深まったと考えられる。

問11 どのような遊びが楽しかったですか。



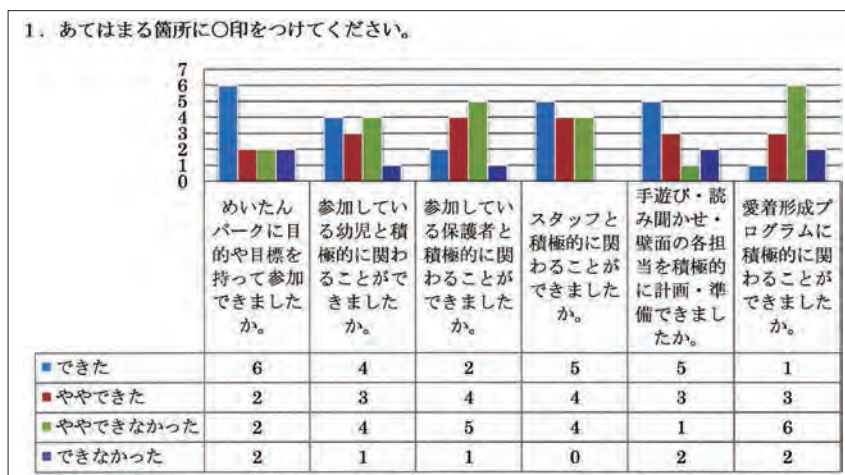
左記の表により、運動遊び（しまなみアースランド）5人、運動会ごっこ4人、店屋さんごっこ4人、おいもほりあそび2人、小麦粉粘土遊び2人、おもちゃ作り（はらぺこあおむし）1人という結果になった。児童館コーナーは、子どもが興味・関心が持てるようにしたり、その季節に合わせた運動遊びや製作など親子で楽しめる活動をしている。その中

から、特に身体を使った遊びを楽しんでいるように感じた。

問12 今後改善してほしい点や意見等、何かございましたら自由にお書きください。

名札が外れやすいため改善してほしい点や季節ごとに遊びが変わると楽しさが増すなどの意見があった。保護者からの改善点を聞くことによって、次回から名札を外れにくいように安全ピンを使って改善することができた。季節ごとに遊びを変えることはより興味を引き出せると思うのでとてもよい意見だった。

学生対象アンケート結果





← 交歓会の前段階として、本学学生祭にて来場した児童向けに今回のオペレッタを上演（平成26年11月）

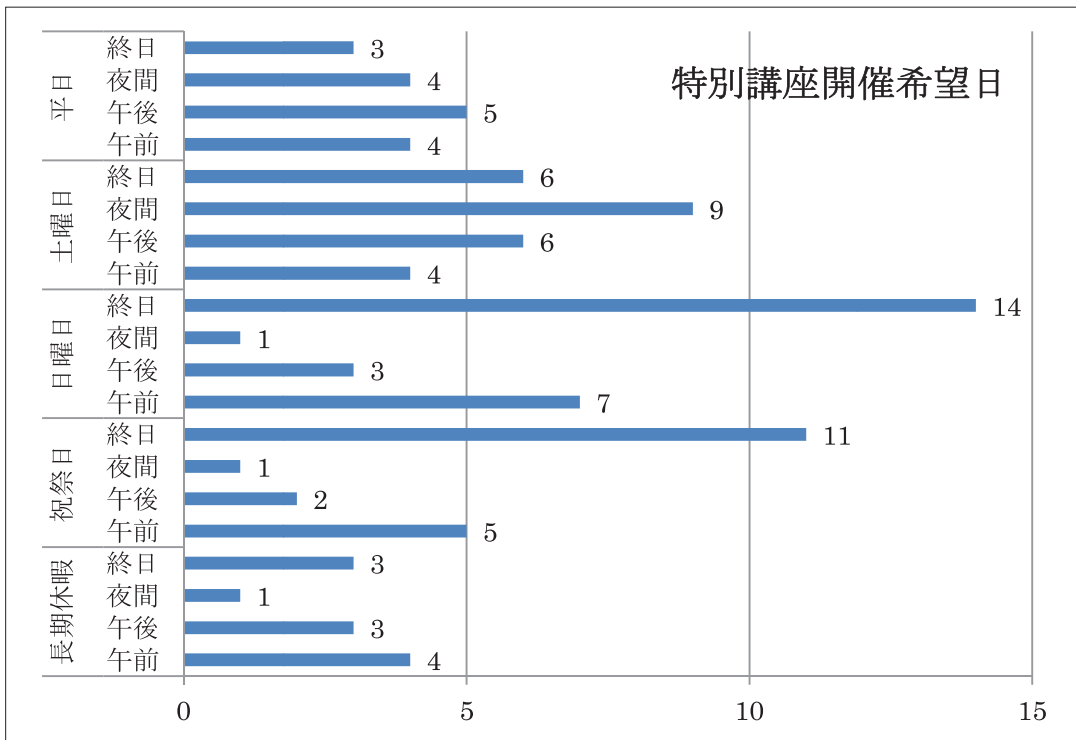
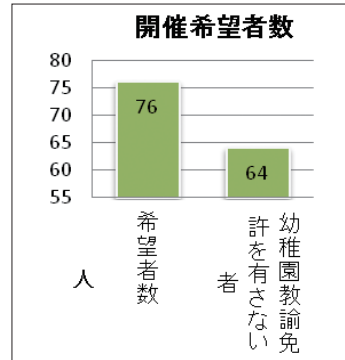
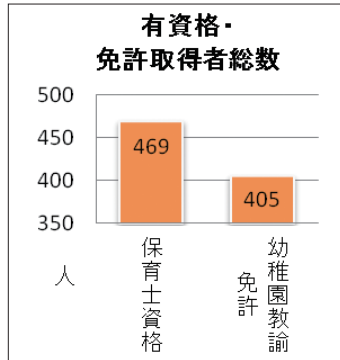
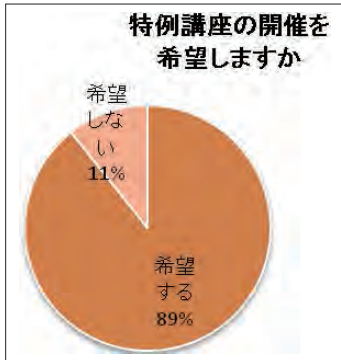
↓ 2年生が1階で来所した児童らを1階から4階会場まで案内し、1年生が花道を作って出迎えた。

1年生による手遊びのあと、2年生による「さるかにがっせん」「まめたろう」「まつり」のオペレッタをグループごとに実演。参加児童は学生の呼び掛けに元気よく反応してくれ、また学生たちの演技を集中して鑑賞し、それぞれ楽しんでくれている様子であった。



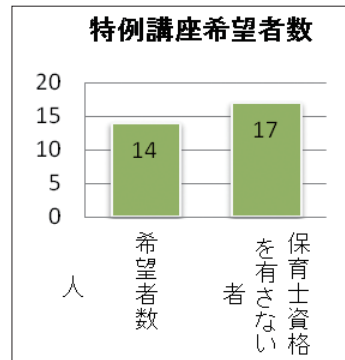
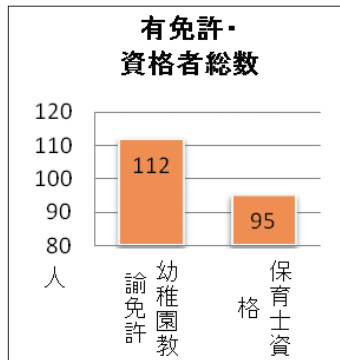
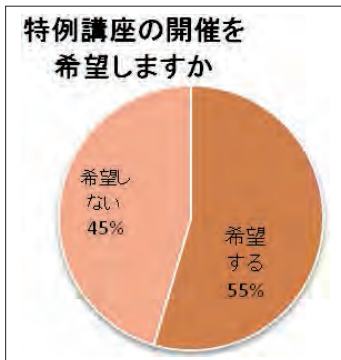
幼稚園教諭免許状取得のための特例講座開催に関するニーズ調査

(保育所 回答：11 無回答：6)



保育士資格取得のための特例講座開催に関するニーズ調査

(幼稚園 回答：11 無回答：6)



事業名 ふれあいの場共同学びの場事業

活動名 ②児童・障がい者・高齢者の共同学びの場活動

幼児教育学科

今治市連携部・課

保育課・障害福祉課

福祉政策課・高齢介護課

課題及び目的

「今治市子ども子育て支援会議」による子育て中の保護者へのニーズ調査の結果、「親子が安心して集まれる公園等や施設の整備」が行政への要望の上位にあげられている。そのような「場（地）」の整備提供が課題となっているため、子育て支援「楽しい遊び講座」及びキッズコーナーを併設した「地域の子育て広場」を開催する。

目 標

教育

「地域福祉論」の授業で月2回外部講師を招いて「児童・障がい者・高齢者」を融合した学びの場の設計を行う。また、障害者、高齢者と実際に交流を持ち関わり方を学ぶ。

研究

プレアンケート調査を行い現状での障害者、高齢者に対する認識の実態を把握する。今後望まれる活動を検討し、開催計画を立てる。

社会貢献

「児童・障がい者・高齢者」を融合した学びの場の開催計画を関係事業所に周知する。

目標達成度及び成果

教育

「児童・障がい者・高齢者」を融合した学びの場の提供を目指し、就労支援事業所「つむぎ」の利用者に1月より計7回来ていただいた。その際、「地域の子育て広場」めいたんパークの中で、作業所で作ったお餅や蒸しパン等を販売していただき、学生との交流を図った。

研究

地域の子育て広場に参加している保護者21名を対象として、「障がい者・高齢者との関わりに関するアンケート」を実施した。結果を精査しニーズを把握した後に、どのような融合が可能か調査し、次年度の開催に向けて具体的に計画を立てる。

社会貢献

本学の近隣にある就労支援事業所「つむぎ」を訪問し、本活動の趣旨をお伝えした。1月より、障がいをお持ちの方と職員の方に来ていただき、地域の子育て広場開催日にあわせて手作りの蒸しパン、餅等の販売を計5回、実験的に実施していただいた。また、保育所長を務められた方たちに断続的に参加していただき、保護者・児童と関わりながら、子育てに関するアドバイスや遊びについての知識の提供をしていただいた。

今後の課題及び展開

教育

障がい者、高齢者との関わりの中でそれぞれに対する対応の方法をより具体的に学んでから「児童・障がい者・高齢者」を融合した学びの場の設計を行う必要があり、未だ学びの場の設計を行う段階に達していない。障がい者、高齢者それぞれに対する知識や経験を得た後に具体的な設計活動を行う。

研究

今回のアンケートの集計結果を基に、児童と障がい者、高齢者を融合させたどのような活動が望ましいのかを検討する。活動の実施に向けて、参加者の意見を取り入れながら今後の開催計画を立てるとともに、継続してアンケート調査を定期的実施する。

社会貢献

児童・障がい者・高齢者を融合した遊びの場の開催を目指す。初対面での密な関わりは難しいことが予想されるため、お互いに理解する機会を設ける。まずは短時間の関わりから始め、段階を経て地域の子育て広場の中で共に学びあうことができるよう、開催日時等の設定を行う。

活動実施内容

- ・「障がい者・高齢者との関わりに関するアンケート」を実施
- ・「地域の子育て広場」にて「児童・障がい者・高齢者」を融合した場の開催

詳細報告



就労支援施設「つむぎ」による手作りの蒸しパン、餅、アクセサリ等のバザーを地域の子育て広場にて出店



元保育所長による節分や雛祭りに関する話は、参加者のお母さん方もいつも真剣な表情で聞き入っています。

地域の子育て支援広場「めいたんパーク」に参加した保護者を対象に、アンケートを実施し、集計を行った。

めいたんパーク（障がい者・高齢者との関わり）についてのアンケート

1. A) 今までに障がい者、高齢者の方と関わったことがありますか。（父母、祖父母等を除く）あてはまる箇所へ○印をお願いします。

	障がい者		高 齢 者	
	ある	ない	ある	ない
ご自身	15人	6人	21人	0人
お子様	3人	18人	15人	6人

B) 「ある」と回答された方は、どのような機会に関わりましたか。

1. 買い物中 11人 2. イベント 3人 3. 支援センター等 12人
 4. 公民館 4人 5. その他（施設、学生の頃、行事、実習、仕事、病院）

2. 障がい者・高齢者の方と、ご自身やお子様に関わる場合、どのような場所・機会が望ましいと思いますか。

1. 室内あそび 15人 2. 外あそび 7人 3. お散歩 6人 4. 工作 8人
 5. 手芸 2人 6. クッキング 1人 7. 伝承あそび（昔あそび）14人

3. 障がい者・高齢者との関わりについて、率直なご意見をご自由にお書きください。

- ・なるべく小さいうちから関わらせたい。
- ・色々な方とたくさんふれあわせたい。
- ・関わる機会があれば子どもが小さいうちから関わりたいです。
- ・小学生の頃、学校におじいちゃん、おばあちゃんが来てくれて工作などをしてもらった記憶があり、楽しかったなと思うので、また関わりたいな、と思います。
- ・何も偏見のない時期から関わるのが大事だと思います。
- ・いろいろな方との関わりで自分自身も子どももいろんな意味で成長できるのでいいと思います。
- ・もう少し大きくなってから関わりたい。
- ・どんどん子どもたちと関わる機会が増えればいいなと思っています。



学生は、販売場所の設置や販売補助などを行い、自然なかたちで利用者の方と触れ合うことができた。

事業名 福祉と障がいについての教育及び地域文化集積と伝承教育事業

活動名 ③歴史文化の集積と発信活動

ライフデザイン学科 介護福祉コース

今治市連携部・課 地域振興課・文化振興課

課題及び目的

島しょ部には、島四国遍路に代表されるような古くからの文化があるが、残念ながら少子高齢化の影響での後継者不足や経済不況の影響で伝統の継承にまで手が回らないという現状がある。文化や伝統は一度途絶えると伝承が難しい。今まで伝承されている文化の調査・情報収集を行い、若い世代に伝えゆく役割を担う人材の育成を目的とする。

目 標

今治市の様々な郷土文化・伝統をすたれさせないために老から幼への活動として『「知」の集積と保存を行い、それを伝承する』という事業を展開してゆく。

教育

個々が郷土に愛着を持ち、自ら行動することの大切さを認識する。

研究

現状を調査、補完し、劣化させることなく次代へ伝えるすべを探る。

社会貢献

形だけでなく、その意味と背景を知り自発的に継承してゆけるようにする。

目標達成度及び成果

教育

今治史談会会長を外部講師として招き、「今治市の歴史について」教育の一環として学生・市民対象のオープン授業を実施。自分たちが生活している地域がつくられてきた経緯について知ることができた。学生は歴史を知ること、地域への関心を持ち、コミュニティづくりの重要性を学ぶことができた。

研究

「今治市の歴史について」の講演を実施した。今治の歴史を知ること、今治地方に伝わる民話の紙芝居制作についての題材のヒントを得ることができ、今後の活動の準備につなげることができた。

社会貢献

「今治市の歴史について」、学生・市民対象のオープン授業を実施。市民も歴史を知ること、新たな知識の習得と地域への関心を持つ機会となった。

今後の課題及び展開

教育

若い世代に伝えていく役割を担う人材の育成が必要である。

研究

コースセミナーの中で、今治市の歴史について講演などで語り手から情報を得るとともに、その他の情報収集を図りたい。

社会貢献

今後も大学として学生・市民対象のオープン授業を展開し、人材育成をしてゆく必要がある。

活動実施内容

- 1月8日(木) 15:00~16:30今治市史談会会長による「今治市の歴史について」の学生・市民対象のオープン授業を実施

詳細報告

講演題目「今治市の歴史について」で特に「古代都市今治の誕生」について講演を実施。学生40名・市民7名であったが、改めて今治市の歴史について知る機会を得た。

今治は、飛鳥時代から日本初の総領が置かれ、伊予・讃岐の2国を統括していた。日本初の都・藤原京の建設が始まり、今治でも前例のない地方計画により伊予国府が、藤原京の縮小コピーの形で建設された。今でも、飛鳥の地名をそのまま用いた地名が多いことが伺えるとのことであった。



受講生は、自分たちが生活している地域がつけられてきた経緯について知ることができた。学生も、歴史を知ることによって、地域への関心を持ち、コミュニティづくりの重要性を学んだ。



事業名 福祉と障がいについての教育及び地域文化集積と伝承教育事業

活動名 ④文化の継承を老から幼へ活動

ライフデザイン学科 介護福祉コース
今治市連携部・課 高齢介護課

課題及び目的

今治地域に伝わる歴史・民話等の伝承者の高齢化、文化の継承の後継者不足による地域格差が増大してきている。本学の授業の中で歴史・民話・方言などの内容を紙芝居などの形に残し、老から幼へ伝承し、つながりづくりを進める。

また、地域文化の調査・収集を行い、伝承し発信すべき「知」を集積し地域の課題をグループで議論しながら課題解決を図る方法を見出してゆく。

目 標

今治市との大学公開講座の強化やオープンカレッジ・公開講座・受託講座・教室を開催する。

教育

「郷土文化、伝統を廃れさせないために知の集積と保存を行い、それを伝承する」という事業を展開してゆく。郷土を知ることで独自の文化を大切にすることを養ってゆく。

研究

特に継承者不足が顕著な島しょ部に重点を置き、地域独自の伝承を収集し保存する活動を展開してゆく。

社会貢献

文化を伝えることで世代を超えた交流と協調を深めてゆく。

目標達成度及び成果

教育

コースセミナーの授業の一環として、今治で受けつがれている話の紙芝居を制作した。台詞を今治弁にすることで、地方色を強調し、より身近な文化として実感することができた。

研究

1月29日(木) 14:30~16:00「大三島の保健福祉」についてのオープン授業の中で、「いもじぞうさん」の紙芝居の実演を実施。学生38名 一般8名の参加。学生にとっては、台詞の読み方、声の大きさ、間の取り方を学び、紙芝居を通して伝える力や表現力の大切さを学ぶことができた。

社会貢献

1月25日(日) 12:50~16:00「コミュニケーション技術・移動の介護」についてのボランティア講座の中で、「三女さん」の紙芝居の実演を実施、一般14名が参加。また、介護実習のレクリエーションとして、施設で6月~10月に5回実施。施設の利用者や島しょ部の地域住民が紙芝居を通して民話を知る機会となった。

今後の課題及び展開

教育

伝承していく歴史や民話などの情報収集が課題である。話を聴く力、コミュニケーション力を養うため、世代をこえた交流の機会を設けてゆく。

研究

今治地域でも他に紙芝居で活動している団体の実演を依頼し、情報を共有するとともに収集・伝達技術の向上を図る必要がある。

社会貢献

知の集積の結果として作成した紙芝居などを実演する機会を展開してゆく。

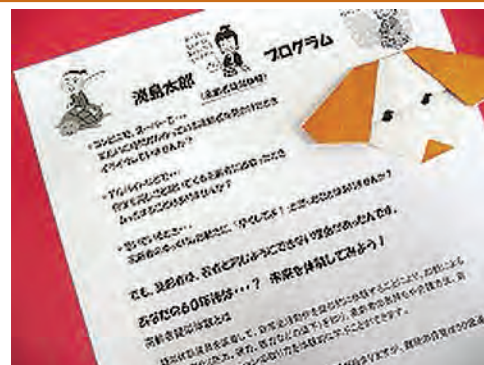
活動実施内容

- ① コースセミナーの授業で紙芝居を作成
- ② 1月29日(木) 14:30~16:00「大三島の保健福祉」についてのオープン授業を実施
- ③ 1月25日(日) 12:50~16:00「コミュニケーションの技術・移動の介護」についてのボランティア講座を実施、介護教室の中で学生による紙芝居の実演

詳細報告

①紙芝居作成

コースセミナーの授業で手書きによる紙芝居を作成。マジックや絵の具を使って何回も書き直しをしながら作業を行った。台詞などの言い回しを今治弁にすることで地方色を出すことに苦労した。また、互いに意見交換することによって同じ今治弁でも地域により差があることを気付かされた。



②「大三島の保健福祉」についてのオープン授業

「大三島の保健福祉について」という題目で菅（かん）マリハ氏による講演を実施。

大三島では、高齢化率は51.8%と年々増加しており、それに伴い福祉事業・活動(ボランティア活動)など様々な取り組みを行っている。今後は高齢者自身が地域のイベントなどに参加し、住民との交流・近所付き合い(声かけ)など地域にあったニーズにそって、行政が関係機関との連携をし、支援していく必要がある。

紙芝居など伝統文化の継承も重要な課題である。学生にとっては、紙芝居の実演が今後の介護実習のレクリエーションや卒業後の施設でのレクリエーションに役立つものになったと言える。



③ボランティア講座

「コミュニケーション技術・移動の介護」の講座の中で、介護実習先などでレクリエーションの一環として実施している紙芝居の実演を行った。日頃の活動を鳥しょ部の方に知って頂く機会となり、好評であった。



事業名 福祉と障がいについての教育及び地域文化集積と伝承教育事業

活動名 ⑤『お接待』等の「ボランティア養成講座」開催

ライフデザイン学科 介護福祉コース

今治市連携部・課 市民生活課・観光課

課題及び目的

今治市の課題として、鳥しょ部での顕著な高齢化と障がい疾病・医療費の増大が挙げられている。ボランティア講座（介護教室）を開催し情報交換の場を設け、活動を展開する。

本学の学生及び教職員が専門的な知識や技術をアドバイス・指導することにより、学生の介護福祉士としての教育指導力・おもてなし力を向上させ、コミュニケーションスキルをアップする。併せて共に勉強することで地域の人々との交流を深め、介護に関する基礎力を向上させる。

目 標

今治市との大学公開講座の強化やオープンカレッジ・公開講座・受託講座・教室を展開してゆく。

教育

「コミュニケーション能力を兼ね備えた人材育成」を行い、今治での社会的ニーズに一層応えた教育改革を実施する。

研究

ボランティア講座（介護教室）でのアンケート調査、地域イベント・ボランティア活動の参加などによる情報収集を地域の課題の研究として行ってゆく。

社会貢献

介護を行っている人々にボランティア講座（介護教室）の開催、地域イベント・ボランティア活動の参加など、地域住民・関連団体や施設の要望に応える努力も払ってゆく。

目標達成度及び成果

教育

ボランティア養成講座を本学の介護実習室で2回開催し、地域住民4名の参加者があった。介護の基本ともなるコミュニケーションや移乗・移動の介護方法について、今まで学習してきた振り返りも兼ねて学ぶことができた。

研究

ボランティア養成講座を本学及び鳥しょ部で2回開催し、地域住民26名の参加者があった。講座の中でアンケート調査を実施し、鳥しょ部での介護の課題の把握ができた。

社会貢献

ボランティア養成講座を鳥しょ部（大三島）で2回開催し、地域住民14名の参加者があった。技術を伝えながら、住民と交流を図り、地域の方と一緒に学ぶことによって、地域で求められていることを知る手がかりができた。

今後の課題及び展開

教育

今後も開かれた大学として、公開講座、介護教室を継続して開催する。学生が地域住民と共に学習することにより、お互いの介護技術・コミュニケーション能力の向上を図るために、どのような工夫が必要かが課題である。

研究

今後も鳥しょ部での介護教室を継続して開催。ボランティアをする側・される側双方のニーズを的確に把握し、情報を収集するためにはどのような方法が効果的かを探っていく。

社会貢献

今後も鳥しょ部での介護教室の場を継続して開催。今後は地域のニーズにあった内容を検討し、どのように展開していくかが課題である。

活動実施内容

- 11月30日(日) 10:00～14:00 元気フェスタ in 大島
- 1月7日(水) 12:50～16:00 ボランティア養成講座
「コミュニケーション技術・移動の介護」開講
- 1月22日(木) 12:50～16:00 ボランティア養成講座
「国家試験レベル実技講習」開講
- 1月25日(日) 12:50～16:00 ボランティア養成講座
「コミュニケーション技術・移動の介護」開講
- 2月15日(日) 12:50～16:00 ボランティア養成講座
「国家試験レベル実技講習」開講

詳細報告

- 11月30日(日) 10:00～14:00 元気フェスタ in 大島

地域の伝統文化にも触れ、地域の方々との楽しい時間を過ごすことができた。今後もボランティア活動に参加し地域貢献に努めていきたい。また、コミュニケーションの中で知り得た情報を地域の課題としてとらえ、今後の授業に活かしていきたい。



- 1月7日(水) 12:50~16:00 今治明德短期大学 介護実習室
 ボランティア養成講座「コミュニケーション技術・移動の介護」

介護に従事されている方もおり、日ごろの困っていることや上方移動・水平移動・体位移動などを熱心に受講されていた。

地域住民にとっては新しい技術の修得ができ、学生にとっては、教えることでさらに技術の向上と地域住民との交流を図ることができるとても良い機会であった。



- 1月22日(木) 12:50~16:00 今治明德短期大学 介護実習室
 ボランティア養成講座「国家試験レベル実技講習」

「広報今治」や本学のホームページを見て申し込みされた地域住民の方も参加。学生にとっては、地域住民とのふれあいや外部講師による実践的な技術の指導も含めていい勉強になったと思われる。

言葉かけをしながら相手の表情を見て介助をすることが重要であることを再確認した。



- 1月25日(日) 12:50~16:00 今治市社会福祉協議会 大三島支部
 ボランティア養成講座「コミュニケーション技術・移動の介護」
- 2月15日(日) 12:50~16:00 今治市社会福祉協議会 大三島支部
 ボランティア養成講座「国家試験レベル実技講習」

学生は日ごろの教わる立場から教える立場になることで、今までの学びをより深く理解することができた。

また、地域住民との交流の中で、地域住民の方々の介護に対する意識などにも触れ、地域で求められていることを知る手がかりを得た。



事業名 福祉と障がいについての教育及び地域文化集積と伝承教育事業

活動名 ⑥島四国八十八カ所への地域開発発想バリアフリーマップ作成
ライフデザイン学科 介護福祉コース
今治市連携部・課 福祉政策課・観光課

課題及び目的

島しょ部では、島四国八十八カ所という貴重な文化があるが、後継者不足や高齢化による実施準備の苦勞などの課題がある。またこのような文化保存、継承の面で今治市内でも地域格差が大きい。

教育

本学の教育の一環として伝統の集積と保存を取り組むことを目的とする。

研究

これら伝統行事や文化の集積を行い研究する。

社会貢献

郷土の伝統と文化を継承するため、その集積と保存に取り組んでゆく。

目 標

今治市内の様々な郷土文化、伝統を廃れさせないために老から幼への『「知」の集積と保存を行い、それを伝承する』という事業を展開してゆく。

教育

特に行事の根本にある「おもてなし」の心を若い世代へと伝えてゆく。

研究

まずは島四国八十八カ所という行事を知り、伝えられてきた習慣や意識をデータとして整理し、後世に残せる形にする。

社会貢献

若い世代の関心を引き、後継者を育成してゆく。

目標達成度及び成果

「島四国の歴史と実態について」の題目で、島四国八十八カ所 第79番札所 福蔵寺の住職による講演を実施。

教育

島四国の歴史と現状を知ることで、お接待の考え方やお遍路さんとしてのマナー、地域での取り組みの在り方も学ぶことができた。

研究

島四国でお遍路をする人たちの変化やその成り立ちを知ることで、ただ行事として行うだけでなく、その根底にある心に触れることができた。

社会貢献

島四国でお遍路をする人たちの変化を知ることで、島四国でのお遍路の意義、お遍路を

する上でのマナーやお接待の意味を考えることができた。

今後の課題及び展開

教育

文化の保存に対し、与えられた課題としてではなく自ら取り組む姿勢を身につけてほしい。

研究

行事の根底にある心の部分をどのように受け止めるかが課題である。

社会貢献

来年度 4月にある島四国八十八カ所の活動につながるように展開してゆきたい。

活動実施内容

- 12月25日(木) 14:30~16:00 大島 島四国79番札所 福蔵寺 住職 河野之伴氏
「島四国八十八カ所の歴史と実態について」 学生40名 一般2名の参加

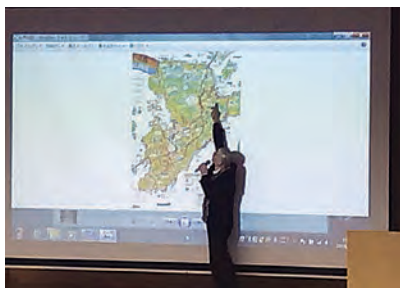
詳細報告

島四国は200年間脈々と続いているお接待

“お・も・て・な・し”

ご利益があり、病気が治った人もいたとのこと。

オープン授業として、「島四国の歴史と実態について」を実施したことで、「島四国八十八カ所」を知ってもらう機会を得た。年々減って来ている島四国の参拝者が増え、島民のお接待文化を若い世代が継承していくきっかけとなしてほしい。



[講義メモ]

- 島四国は、歴史も古く200年間、戦時中も途切れることなく続き多くの方が訪れた。
- 福蔵寺では、1日800~1000杯の甘酒のお接待をする。
- 年々高齢化が進みしまなみ海道の開通もあり、徒歩で巡る人より車で巡る人が多くなっている。そのため、日帰りのお遍路さんが多い。
- 後継者不足による善根宿（ゼンコンヤド・島民の家）の維持管理も厳しく、伝統文化の継承が難しい。
- 大島の島四国は、へんろ道なので道幅は狭く、急な坂の上にある寺が多い。住職がいる寺は数件ほどである。



事業名 調理・製菓技能教育及び特産品開発支援と講習事業

活動名 ⑦「特産品開発講習会」活動

ライフデザイン学科製菓製パンコース・調理師専修科
今治市連携部・課 商工振興課・観光課

課題及び目的

教育

当地の特産品である柑橘類はまだ加工品としての利用度が低い。市内の生産者による柑橘類（いよかん）を製菓製パンに利用する実習を通して、地場産品を活用する創作力を養う。

研究

地場産品を素材とした製菓製パンの開発教育を通して学生の創造性を伸ばす。また地場産品を利用した製菓・調理のレシピの公開と試作品の評価を通して、特産品の付加価値形成のための研究開発を行う。

社会貢献

地場産品の付加価値形成に、一次加工品（製菓素材）及び最終製品（製菓製パン品）のレシピ開発を通して貢献する。

目 標

教育

- ・今治明德短期大学発の特産品を確立する。
- ・地域農業の六次産業化に資することを理解し、実習の意義を深める。

研究

- ・製菓製パン等の各種コンテストに出品し、独創性の評価機会を増やす。
- ・“うきしまショコラ”（今治市ムロヤ菓舗）は、今治明德短期大学連携商品の第1号であり、これに続く商品の誕生を目指す。

社会貢献

まず足がかりとして、地元の農業者との情報交換及び交流の機会として、今治市食生活改善推進協議会と交流し、理解と協力を図る。今後の協力関係を築き、要望や評価に関し幅広い意見を収集する。

目標達成度及び成果

教育

地元ではありふれている「いよかん」であるが、生食以外の加工用途は広くない。これを広げる取り組みとして果皮の効果的な利用に取り組んだ。有機栽培を行っている生産者から入手した「いよかん」の果皮を製菓製パン用の素材として活用するために、実習では一次加工から取り組んだ。この実習の経験が、愛媛県農林水産研究所が育成したさといも新品種「媛かぐや」の製菓製パンレシピ開発のはずみとなった。

研究

いよかんピールのデニッシュを試作し、食生活改善推進協議会員による官能評価を実施した。評価結果は、近く論文として公表の予定である。

社会貢献

今治市の食生活改善推進協議会員の協力により行われた開発品の官能評価で、いよかんピールを素材としたデニッシュは肯定的なコメントが多く寄せられた。しかし参加者の間で、あるいは参加者の周辺でこれを商品化して産直市に出品するような動きは未だ見られない。この背景には、受講者が商品開発に関心を持つ農業者や食品加工業者ではないことがある。講習の成果を活かす上で、今後は農業者の六次産業化を推進する今治市の該当部署との連携を期待したい。

今後の課題及び展開

教育

製菓衛生師の養成教育に於いては、必修科目とその教育内容が定められている。その中で創造的な実習教育を展開するには限界があり、学内必修科目の新設で“特産品”開発を推進したい。

研究

今後は、対象農産物の種類を増やし、製菓製パン素材としての可能性を実習（本学教育）で追求したい。また生産者と連携して、付加価値形成の方法を提案したい。

社会貢献

地場産品を素材に開発したレシピの公開は、今治市の食生活改善推進協議会員を対象に行った。当初から、同協議会の指導に当たっている社会教育課と連携を図り、同協議会の年間活動の一環として本講習が実現した。講習の成果は、農業者の六次産業化に資すると考えられることから、今治市の当該部署との連携を期待する。

本事業とは別に、新たに今治市大島の農業者（イチジク生産者）からイチジクを使ったスイーツ開発の協力依頼があった。この提案についても、今治市の当該部署と連携を図りながら、期待に応えたい。

活動実施内容

- 平成26年4月14日(月) ・ 4月21日(月) いよかんピールの加工実習
- 平成26年7月1日(火) いよかんピールを使ったデニッシュの試作
- 平成26年8月30日(土) 9:30~14:00

「調理・製菓講習会2014 ～地産地消！身近な食材の活用法～」



詳細報告

「調理・製菓講習会2014 ～地産地消！身近な食材の活用法～」

平成26年8月30日(土) に実施 I部(調理)とII部(製菓製パン)の構成で講習



参加者 今治市食生活改善推進協議会員他 26名
授業ではまず、いよかんの一次加工品(ピール)の調製から始め、次いでこれをフィリングしたデニッシュを調製し試食した。果皮は通常、廃棄している部分であるが、加工の仕方によって十分食用(“可食部”)になることを、実習を通して気付いた様子であった。

II部の講習「カンキツ類の新たな利用について」で、いよかん果皮の一次加工の方法と、これを利用したレシピを公開した。この後、試作品「いよかんピールの

デニッシュ」の官能評価をして頂いた。

市販のアップルコンポート入りデニッシュと、今回試作したいよかんピール入りデニッシュの2品の官能評価を今治市食生活改善推進協議会員の皆さんに行ってもらった。アップルコンポート入りを基準にして、香り、噛み応え、酸味、甘味、総合評価を比較したところ、いよかんピールはアップルコンポートに劣らない好評価を得た。

質疑応答の中で、島嶼部からの参加者から「ひじき」の新たな加工利用の方法を求められた。このように、特産品開発講習が六次産業化を目指す農業者の支援に繋がり、ひいては地域農業の経営安定化に繋がることを期待する。



事業名 調理・製菓技能教育及び特産品開発支援と講習事業

活動名 ⑧「家族の料理、菓子教室」活動

ライフデザイン学科製菓製パンコース・調理師専修科
今治市連携部・課 社会教育課

課題及び目的

今治市は地産地消に積極的に取り組んでおり、食育にも関心を持つ地域であるが、行事食などの食文化・食習慣の教育の普及が課題となっている。

教育

親子と一緒に楽しく調理ができるように、技術指導ならびにレシピを提供する。学生は責任を持って調理補助をする。その過程で、普段の授業からは得られないふれあいを実感する。

研究

親子と一緒に楽しく調理ができ、かつ地域行事を伝えることのできるレシピを探求する。

社会貢献

親子で協力して行事食を作ることから、料理を通じて日本の食文化を伝承していく。

目 標

教育

郷土文化、伝統を廃れさせないために知の集積と保存を行い、かつ伝承してゆくため、親子で協力して調理・製菓を楽しみ、家庭でも作っていただけるような指導を目指す。加えて、学生と一緒に調理をすることから、嗜好の個人差を知り、参加者とのコミュニケーション力向上を図る。

研究

- ・介護食試作立ち上げの参考資料として、対象者への問いかけ方や質問内容について検討する。
- ・学生を通じて双方のコミュニケーション力向上が期待できる授業を展開する。
- ・アンケート調査から、参加者が求める教育内容を把握して次回につなげる。

社会貢献

日本の伝統料理や郷土料理の作り方や由来を学習し伝えてゆく。また、共同で調理をすることにより、親から子へ伝えるきっかけ作り、コミュニケーションの場作りをする。

目標達成度及び成果

教育

参加者との積極的な関わりの中、一緒に作る楽しさや会話の大切さを学んだ。喜んで頂く様子をその場で見ることができ、双方の満足感につながった。調理の技術や知識だけでなく、相手の立場になって分かりやすく説明することの難しさに気付かされた。

研究

アンケートから、児童・保護者それぞれの要望を拾えた。学生も参加者の態度を通して、

自分の作業や理解度を別視点で見直すことができた。

社会貢献

「親子の食育講座」は家庭以外の環境ということで刺激があり、親子双方の満足感につながったと思われる。

座学としての知識だけよりも調理との抱き合わせで行うことが、参加者の理解をより深めると確信した。

今後の課題及び展開

教育

年少の参加者が数名いたが、途中で飽きてしまい授業にうまく誘導できない時間があった。指導できる学生を増員し、きめ細やかな対応が望まれる。

研究

今後企画する食育講座ならびに介護食の研究へと発展させ、世代を超えたフォローを行えるような基盤づくりを行う。次回の「親子の食育講座」がさらに充実したものになるよう、料理教室の内容・学生の対応などを点検評価していく。

社会貢献

今回の講座は参加者の年齢差に対する考慮が不十分だった。情報伝達がスムーズにできるよう事前に参加者の年齢層を十分把握し、内容を調整しておくことが重要である。

活動実施内容

- 平成27年1月31日(土) 「家族の料理・菓子教室」
9:45~13:00 (お料理) 13:15~15:00 (お菓子)
参加人数: 親子(12組) + 4名 合計28名

詳細報告

午前中(お料理教室)は、参加者と学生が一緒に「恵方巻き」「いわしのつみれ汁」を作った。「いわしのつみれ汁」のすり身を団子にしたり、初めてお寿司を巻く子供たちに手を添えて指導をしながら楽しく調理をした。全員で試食をし、協力して作り上げた行事食をおいしく味わった。学生と児童たちは会話が弾み、保護者が家庭以外での調理に興味津々で、「また機会があれば参加したい。」との声が上がった。



その後、柊鰯を飾っての邪気払い、豆まきをなどの「節分」の風習を学習した。イラストを使って説明をし、児童でもわかりやすい配慮をした。



午後（お菓子教室）は、「豆大福」中心に、「いちご大福・栗大福」を作った。もち粉から作るの初めての方が多く、火入れするのは力仕事となったが、親子で交代しながら協力して見事に大福が出来上がった。家とは違う場所で調理をすることで、親子間の助け合いコミュニケーションがより深まった様子であった。



親子料理教室後、アンケート調査を行った。今回参加の保護者は30代が70%、児童は低学年以下が約60%であった。食育への関心は高く全体の90%が「関心がある」と回答。具体例として「バランスのよい食事」「子供の体を作る食は成長に大事なことである」など、今後のテーマになりそうな意見が多数寄せられた。

「今後行って欲しい料理教室の内容は？」に対し、「家で作らないような料理」「子供と作れるもの」「おせち料理」「魚をおろす」などの回答があった。習ってみたい具体的な料理名の記載もあり、アンケートの手ごたえを感じた。



午後のお菓子教室では地元のケーブルテレビの取材があった。講師のデモ・解説・みんなでお菓子を作る様子の撮影があり、後日放映された。「親子の食育講座」の認知度が上がることで今後参加者の輪が広がる可能性が高まり、文化を伝承するきっかけ作りができた。



事業名 食育及び健康栄養教育事業

活動名 ⑨「子どもを対象とした食育講座」開催

ライフデザイン学科 食物栄養コース

今治市連携部・課 子育て支援課

J A越智今治

課題及び目的

現在生活習慣病や慢性疾患が、すべての世代で広がっている。生活習慣病や慢性疾患を予防するには、できるだけ早い時期からの食生活を中心とした日常生活の改善が必要である。

教育

地域や保育所の園児等を対象に日頃からの食生活の大切さを指導、啓発できる人材を育成する。栄養や健康に関する知識だけでなく、相手の心に訴えられるような表現力を身につける。

研究

相手の理解度に合わせた食生活指導を効果的に行うための手法を考え探求する。

社会貢献

生涯にわたって健康であるために、食生活の大切さを理解してもらうことが重要である。特に遊びの中で子供のころから知識や体験を得ることができるような指導教材を作成し、日常的に使っていただけるように教材を寄贈する。

目 標

食生活習慣改善の必要性および食の大切さを認識、体験できるような教材（食育カルタ・パズル）を作成する。

教育

食育カルタ等の作成を通して、地元の農産物や郷土食を伝えることの重要性を意識し、分かりやすい表現の仕方を考えてゆく。また、園児と学生が共同作業する中で意見を交わすことにより、自分の知識と経験を再認識する機会とする。

研究

作成した教材を実際に活用し、分かりやすく実践しやすい栄養指導の方法を探る。また実際に触れ合うことで現状での子どもの食に対する感覚を知る。

社会貢献

作成した媒体を子どもたちに実際に使ってもらうことにより、幼少期から食事のバランスの大切さを意識する習慣をつける。食と健康の関連を理解することができる。

目標達成度及び成果

教育

『栄養指導論実習』において、食の大切さや地産地消を推進する内容の食育カルタやパズルを作成した。まず学生同士でカルタ取りを行ったが、出身が地元以外の学生にとって

は、新しい愛媛、今治の発見があったようである。

研究

地域での農業まつりにおいて、主に子どもを対象に食育カルタを行った。カルタは一目で伝えたいことが分かるように工夫され、複数回参加した子どもたちは、取れる札の枚数も増えており、食の大切さも徐々に伝えられている。

社会貢献

学生の作った食育カルタ(20札)とパズル(1種類)を5部複製し、福祉施設に寄贈した。

今後の課題及び展開

教育

読み札を50音分考えることは、かなり大変な作業である。地元地域や食の問題についてよく調べることが必要であり、また、それを子どもたちに分かりやすい言葉で表現することも大切である。今後も継続し、対象年齢に応じた内容を考えていきたい。

学生同士のカルタ取りでは、読み手や読み方を変え、どの読み方が聞きやすいか比べることも必要である。教材の作成も大切であるが、絵や文字、音声を通して子ども達に普段の食事の大切さをどのように伝えるのかも学ばせたい。

研究

カルタを読む際の声の大きさや抑揚がないと、聞き違いなどが多く起こった。カルタに限らず、何かを伝えるための技術をもっと身につける必要があると感じた。また、絵札が取られても、読み札を最後まで読むことも必要である。

今後は事前・事後の理解度の調査なども行っていきたい。

社会貢献

子どもたちが安全に遊ぶためには、各教材の角や大きさ等を考えなくてはならない。今回は、50音の内20音のみの寄贈となってしまったが、作成時にイラストや読み札を検討し、1式(50音)寄贈できるようにしたい。また、使用しての感想や意見等をアンケート調査し、次回に生かすようにする。

活動実施内容

- 平成26年度前期(4月～8月) 食育カルタ・パズルを作成
平成27年2月～ 食育カルタ・パズルを作成し、地元保育所等へ寄贈
- 平成27年1月18日(日) 10:00～15:00 大西農業まつりに参加(参加学生17名)

詳細報告

カルタ

『栄養指導論実習』において、食の大切さや地産地消を推進する内容の食育カルタやパズルを作成した。学生17名で合計8つのパズルと1組のカルタができあがった。この作業を通じて、改めて、様々な食問題や地域の良いところが見つかることができたが、これを50音順に整理し、かつ短い文にすることは難しかったようである。

栄養指導論実習の中で作成した食育カルタの中から20札、8種類のパズルの中から1種

類を選び、5部複製した。カルタは、使っている間に縁から紙が剥がれないよう、子どもたちが手を切るなどの怪我をしないようテープで補強した。また、小さな子どもたちも楽しめるように、読み札にはすべてふりがなを付けている。一つひとつが手作業のため、沢山作ることはできず、札も50枚揃っていないが、子どもたちに喜んでもらえるように今後も続けていきたいと思う。



大西農業まつり

越智今治農業協同組合 大西支店主催の大西農業まつりに、毎年参加している。「あなたの健康をチェックします」という短大のスペースを頂き、その中で、学生が作成した食育媒体の展示の他、実際に体験するコーナーを設けた。声をかけると小学生や幼児が参加してくれた。数種類のカルタを用意していたので、何回も参加する子どもも見られた。参加した学生は、自分たちの作ったカルタを子どもたちが楽しんでいる姿を見て、やりがいを感じている様子であった。



事業名 食育及び健康栄養教育事業

活動名 ⑩「中高年対象の栄養・健康講座」開催

ライフデザイン学科 食物栄養コース

今治市連携部・課 高齢介護課 健康推進課

課題及び目的

生活習慣病や慢性疾患が、すべての世代で広がっており、それらを予防あるいは改善するための食生活指導が重要である。

教育

食生活指導を効果的に行える人材の育成が必要である。実際に指導してみることで、食嗜好や理解度の差異を認識し、柔軟な対応の重要性を知る。

研究

理解度は人によって異なり、相手に合わせた対応が求められる。しかし経験の少ない学生に臨機応変は難しい。理解度に応じた基本説明や補助資料を作成し、指導を行うための効果的な手法を考える。

社会貢献

地域の農業まつりや島しょ部において、健康チェック機器を用いて食生活改善の一助となるような機会を設ける。

目 標

教育

食生活習慣改善の必要性や具体的にどのように改善したらよいかを指導するための資料を作成し、それを用いて栄養指導を実践する力を養う。

研究

健康チェック機器の使い方を修得し、結果から読み取れる内容を把握する。そこから、分かりやすく相手に訴える食生活の改善案とその指導方法を探求してゆく。

社会貢献

中高年対象の栄養・健康講座を開催し資料を用いながら、食生活習慣改善の必要性および具体案を指導する。また地域の人々に普段の食事から栄養バランスについて考えてもらえるようにしたい。

目標達成度及び成果

教育

お互いを練習相手とし、健康チェックおよび栄養指導を実施した。機器操作や知識などの術的な面はほぼ目標に達している。不十分な点を先輩が補ったり、互いに協力し合うことで自分の理解度を認識することができた。

研究

健康塾の塾生さんに協力を頂き、栄養指導を体験した。相手に合わせた資料を作成し、

約1時間の指導を行った後、塾長や塾生さんの講評をいただいた。できたことできなかったことなど具体的な改善点が見えた。

社会貢献

地域での農業まつりに参加および島しょ部に出向き、健康チェックの機会を設けた。

農業まつりでは、数十名、また島しょ部では、10名弱の方の参加があった。自分の状態に驚いている人もおり、食生活の重要性について意識してもらうことができた。

今後の課題及び展開

教育

マニュアル通りの説明が多く、マニュアル以上の説明が不足している。言葉だけでは、相手に伝わらないことも多いため、摂取すると良い食品や日常生活の中で取り入れやすい運動などの資料も必要である。相手に伝えるための豊富な知識とうまく伝えるための資料の必要性を感じた。

研究

事前準備の不足を実感した。実際に指導をする前に、作成した資料に不足はないか、どのような質問にもこたえることができるかなど、もっと練習をすることが必要である。

社会貢献

体組成計における健康チェックのみでなく、食習慣の現状把握もふまえた栄養指導が必要である。現在の食習慣を把握できるような栄養ソフトやシステムを利用することも考えたい。マニュアル以外の説明が不十分であり、言葉以外にも資料配付等でより分かりやすい指導を目指したい。

活動実施内容

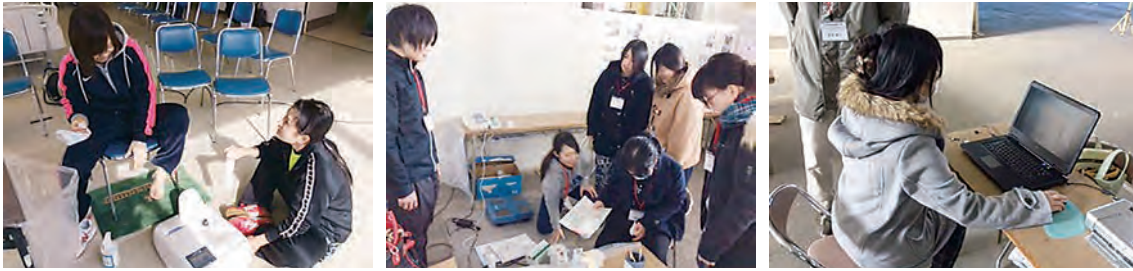
- 『栄養指導論実習』および『コースセミナー』において、健康チェック機器を用いた体験指導を実施
- 平成26年7月29日(火) 健康塾で栄養指導体験(参加学生16名)
- 平成27年1月18日(日) 10:00~15:00 大西農業まつりに参加(参加学生17名)
- 平成27年1月25日(日) 12:50~16:00 大三島ボランティア講座(参加学生3名)

詳細報告

健康チェック体験指導

機器：骨密度計、体脂肪計、栄養チェック

2年生が、機械の基本的な使い方を1年生に指導し、印刷された結果を説明した。その後、お互いを練習相手に栄養指導を行った。1年生は、2年生と比較して知識が不足しており、うまく説明できないこともあったが、2年生の指導を受け、少しずつ改善されていった。また、2年生が1年生を指導することにより、2年生は確認や復習することになり、1年生は来年の自分たちの役割を理解していく。また、学年を超えたお互いのコミュニケーションに役立っている。



栄養指導

健康塾の塾生さんに対し、栄養指導を実施した。事前に塾生さんの情報をいただき、それを参考にどのように指導するか考え、資料づくりを行った。後日、準備した資料を使って栄養指導を体験した後、意見交換を行った。参加した学生は、塾生さんから自分の良かった点や分かりにくかった点の他、こうしたら良かったという具体的な改善案まで頂き、今後の資料づくりや指導に大変役に立ったようである。



農業まつり

健康チェック機器：骨密度計、体脂肪計、栄養チェック

各ブースに来られた方に対し、健康チェックを行った。測定の結果をふまえて身体の現状を説明し、その上で今後どのようにしたらよいか指導を行った。年を取るにつれ、健康のために食生活で努力しているという方、または、気をつけなくてはいけないことを分かっている方が多く、健康に関する意識が高いことがアンケートから分かった。しかし、量や質、組み合わせまでは考えられておらず、正しい情報を提示することも必要であると感じた。自分が食べている物は良いのかなど、いろいろと質問もあり、大変勉強になった。



第三者評価



imjc
IMABARI MEITOKU JUNIOR COLLEGE

第三者評価委員会

1. 日 時 平成27年3月23日(月) 午前10時00分 開会 午前11時30分 閉会
2. 場 所 今治明德短期大学 2F 大会議室

「平成26年度 今治明德短期大学 地(知)の拠点整備事業事業報告」について
事業報告を報告書により行った。その後、質疑応答及び意見交換を行った。

質問

Q：活動⑥島四国八十八カ所バリアフリーマップはどんなものか？

A：車や車いすなどでどこまで行くことができるかなどを地図にして、高齢者や障がい者が参拝できる目安にしてもらう。また、観光にも結び付けるようにする。

意見

- よい活動をしている。もっと早く知っていれば活動に協力出来た。
- 高齢者大学講師依頼、郷土文化（正月飾り、たのもさん）の伝承などの情報提供できる活動がたくさんある。
- 老人クラブの活動に学生のアイデアを入れるとよりよい活動になる。
- 島四国八十八カ所の参拝について、バリアフリーマップの作成もそうだが巡回道路やスロープの整備をする提言もしたらいい。
- 年2回開催している料理教室もいつも同じ講師が担当しているので、調理師専修科活動⑧で協力してもらい若い感覚で内容を一緒に検討したい。
- 様々な活動を見てもらい知恵をいただきたい。目的にそったもので協力できる事があれば、若い空気を入れて見学してもらいたい。
- 島四国の活動もいいが、星島学長の頃から今治明德短期大学が率先して本四国八十八カ所をリードしていたこともあり、本四国もお接待など学生ができるボランティア活動にも継続してほしい。
- ボランティア講座など広報の周知が遅かったこともあり、もう少し早い周知が必要。

「平成27年度 今治明德短期大学 地(知)の拠点整備事業事業計画」について
事業報告を報告書により行った。その後、質疑応答及び意見交換を行った。

質問

Q：活動について要望があれば聞いておきたい。

A：またご相談させていただく。

Q：二年間で活動をするのは創意工夫が必要になっているが、長期間のインターンシップの導入はあるのか？

A：本学は資格取得コースが多いため、教育実習や介護実習などにより長期間のインターンシップを導入することは難しい。

意見

- 活動範囲が広くすべての活動に関与できる。幅広く利用してほしい。
- あてはまる活動がたくさんあるので、年間行事を再考し関わりたい。
- 年間の計画を立てるときに、委員の皆さんを頼って地域のそれぞれの窓口に行けばよりよい活動になるのではないか。
この会議で出た意見を活かしていただきたい。
- 年1回学生と婦人会と合同で食品衛生監視員を実施している。活動を増やすなどできるだけ協力したい。

まとめ

- 平成27年度に反映できるものは反映し、行政に働きかけるものは働きかける。
- 今後、第三者評価委員会においてご意見やご質問を検討し、今後の事業・活動に活かしていきたい。

參考資料



imjc
IMABARI MEITOKU JUNIOR COLLEGE

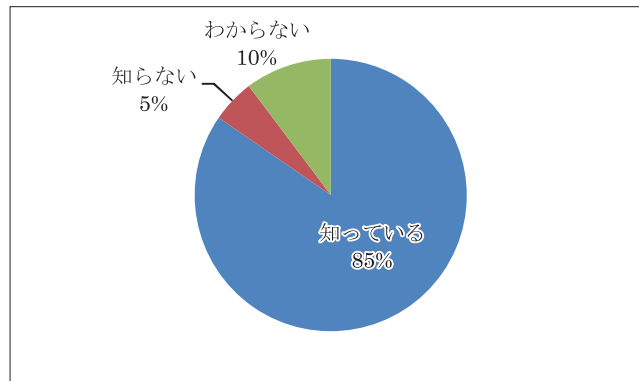
地（知）の拠点整備事業」アンケート集計表
（学生・教職員・連携自治体）

◆学 生

全学生数	102
有効回答数	78
回答率	76.5%

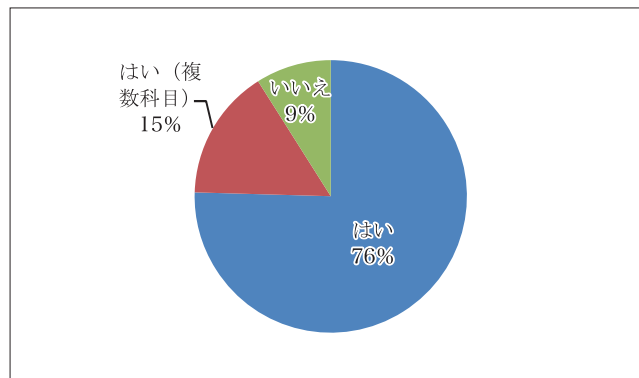
【設問1】

今治明德短期大学が、「地域のための大学」として地域に関する教育・研究・社会貢献活動を推進していることを知っていますか。



【設問2】

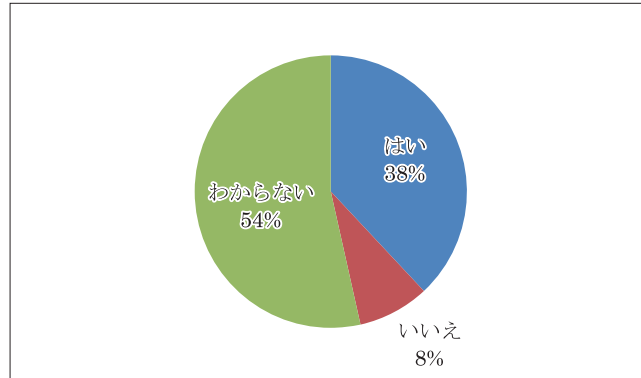
今治明德短期大学が、「地域のための大学」として実施する科目等を受講したことがありますか。



【設問3】

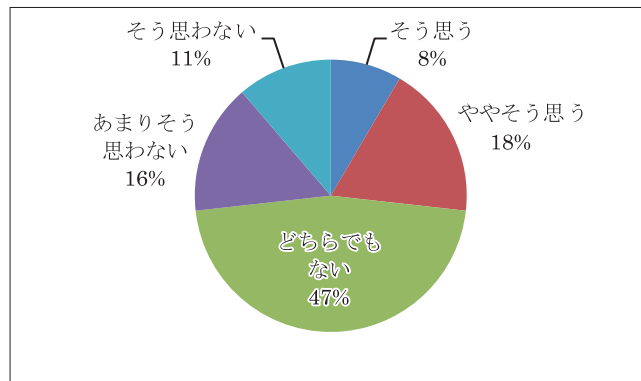
(「2.」の質問で「はい」を選択した方がご回答ください)

3. 上記科目を受講した結果、課題を含めた地域の現状を把握するとともに、地域の問題解決に役立つ知識・理解・能力は深まりましたか。



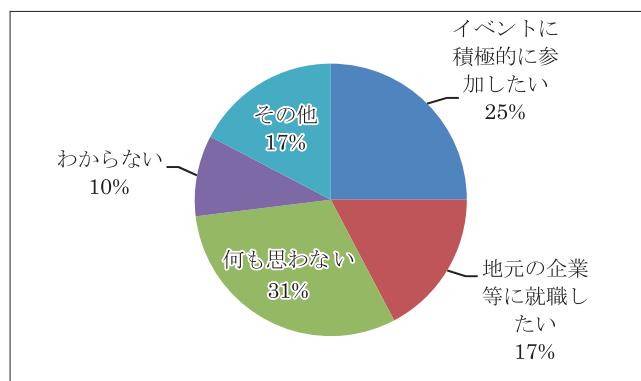
【設問4】

今治明德短期大学が、「地域のための大学」として実施する科目等の受講が、愛媛県の企業や自治体等に就職しようとするきっかけになりましたか。



【設問5】

その知識・理解・能力を今後どのように活かしていきたいと思いますか。



その他（一部抜粋）

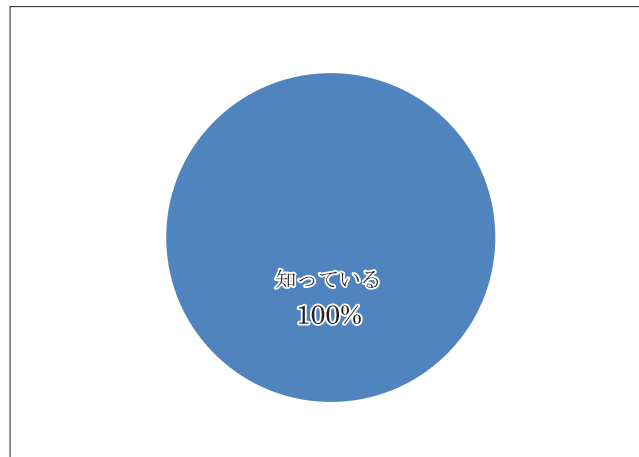
- 実習で活かしていきたい
- 帰国してから観光に関する仕事に役立てたい
- 高齢者とのコミュニケーション
- 就職に活かしていきたい。

◆教 員

全 教 員	22
有効回答数	22
回答率	100%

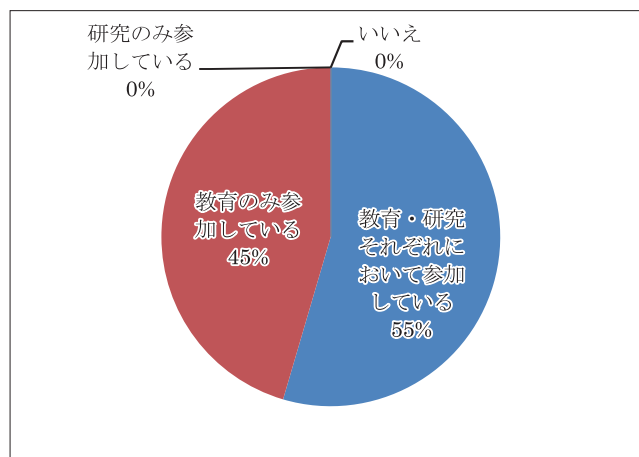
【設問1】

今治明德短期大学が、「地域のための大学」として地域に関する教育・研究・社会貢献活動を推進していることを知っていますか。



【設問2】

「地域のための大学」として、地域を志向した教育・研究に参加していますか。

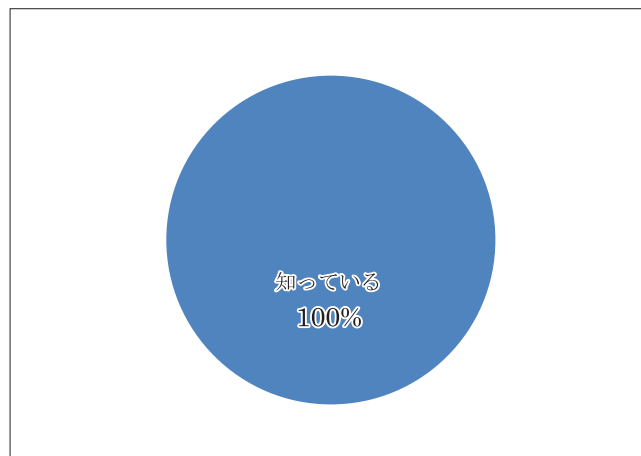


◆職員

全職員	21
有効回答数	21
回答率	100%

【設問1】

今治明德短期大学が、「地域のための大学」として地域に関する教育・研究・社会貢献活動を推進していることを知っていますか。



◆連携自治体 今治市

【設問1】

今治明德短期大学の取り組みは、副申した事業計画どおりに進捗していると思いますか。

【回答】

事業計画作成の段階から本市とも協議を重ねていることもあり、事業計画どおりに進捗している。

【設問2】

今治明德短期大の取り組みについて、円滑な連携のもとに実施されていると思いますか。

【回答】

常日頃から大学とは連携を密にしており、今回の取り組みについても協議を重ねながら実施できている。

【設問3】

今治明德短期大の取り組みは「地域のための大学」として満足するものですか。

【回答】

大学が本市の課題解決に繋がる取り組みを積極的に行っているため、大いに満足。

めいたんパークリーフレット

文部科学省
地(知)の拠点 平成26年10月スタート!
今治明德短期大学 地(知)の拠点整備事業
ふれあいの場・共同学びの場事業

「地(知)の拠点整備事業」とは
「地(知)の拠点整備事業(大学COC事業)」は、大学等が自治体を中心に地域社会と連携し、全学的に地域を志向した教育・研究・社会貢献を進める大学等を支援することで、課題解決に資する様々な人材や情報・技術が集まる、地域コミュニティの中核的存在としての大学の機能強化を図ることを目的として平成25年度に開始された文部科学省の事業です。
※ 詳細は、文部科学省ホームページをご覧ください。

めいたんパーク

大学であそびをまなぶ
あそびながらまなぶ



めいたんパークは、保育士・幼稚園教諭・児童厚生員を養成する今治明德短期大学で実施する、親子のふれあいの場・共同学びの場事業です。毎回、学生によるプログラムや講師によるふれあい遊び、乳幼児の遊びの講座を行います。一緒に楽しみながら、共に学ぶ合うことを目的としています。
たくさんの親子の参加をお待ちしています♪

《対象者》 未就園児(0歳～)とその保護者

《開催日》 火曜日 10:00～11:30

※学生の授業と連動して開催しているため、活動が不定期になることがあります。お気軽にお問い合わせください。



参加者Nさんのご感想

親同士で子どものことについて話せたり、いろいろなことを共感しあえたり、普段できないようなあそびをさせてもらえて、時間があっという間に過ぎました。おかげでグッスリお昼寝してくれました😊

こんなことめざしています

子どもたちと製作や遊びを通して、様々な発見があったり、楽しさを味わったりすることができ、自己のスキルアップにつながるので毎回楽しみにしています。保護者の方に少しでもリフレッシュしてもらえれば嬉しいです♪



平成26年度 幼児教育学科2年1さんのメッセージ



《めいたんパークの流れ》 ※内容により変更する場合があります。

- 10:00～ 自由遊び
 10:30～ 学生プログラム
 ・季節の絵本、手遊び等
 10:45～ ①親子のふれあい遊び
 歌や音楽に合わせてスキンシップ
 ②乳幼児の遊び
 運動・表現・造形など毎回楽しい遊び
 を展開します。
 11:30 終了 活動終了後、めいたんホール(食堂)にて昼食をとっていただくことができます。
 持込みも可能です。*ただし、長期休暇等、利用できない期間があります。



《実施場所》 今治明德短期大学
 大講義室

《駐車場》 短大グラウンド

《問合せ先》

今治明德短期大学 地の拠点推進室
 (0898) 22-7366
 E-mail r-kimura@meitan.ac.jp
 (土・日・祝日・年末年始はお休み)
 URL : http://www.meitan.ac.jp

おむつ交換
 授乳スペース
 あります。

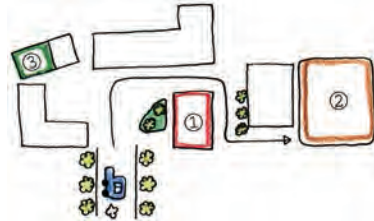


MAP



校内案内図

- ①開催場所-大講義室
 ②駐車場-グラウンド
 ③めいたんホール-食堂



こんなことしたよ♪

今までの活動の様子を一部紹介しています。

毎回、学生による手あそびや読み聞かせの時間があります。
 10:30までは、たくさんのおもちゃであそぶことができますよ。



お店屋さんごっこをしたよ。お買い物をしたあと、お店屋さんに変身！
 お店屋さんの衣裳、ステキでしょ♡



新聞あそびをしたよ。新聞シートを飛ばしたりトンネルにしたり道路にしたりよ
 ビリビリ！新聞をたくさんぎって…新聞のおふうで新聞シャワーも浴びたよ。



しまなみアーランドに森育体験に行っちゃったよ
 がけのぼりや、ハンモック、色水あそび、木登りなどでたくさんあそんだよ。
 マシュマロを自分で焼いたのがおいしくて、たくさん食べたよ。



ミルク缶でアンパンマンの太鼓を作ったよ。言葉や音楽にあわせていっぱいたたいたよ♪



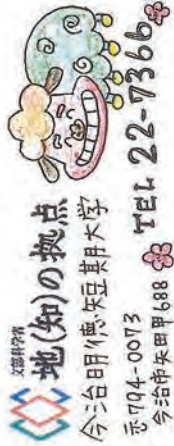


めいたんパーク

1月。新しい年のはじめです。一段と冷え込んでくるこの時期。毛コゴの上着に包まれたかおるいいみんぽに会えるのを楽しみにしています。今月も元気いっぱい、笑顔いっぱい、めいたんパークに遊びに来てください。学生、スタッフ一同、楽しみにお待ちしています。



1月号



めいたんパークとは...
対象者：来館園児とその保護者
☆長期休暇、兄弟児の参加◎
地(知)のある大学(明短)で実施している子育て広場です。幼児教育を学んでいる学生によるプログラム、教員によるふあひあそび、講師による乳幼児のあそび講座を行います。一緒に楽しみながら学びたいことを目的としています。たくさんのお父さん、お母さんをお待ちしています。

今月の予定

- 10:30~12:00 ※毎回、10:00からあそびます!!
- 1月13日(水) お正月あそび
- 20日(水) リズムあそび
- 27日(水) ももたろうゲーム

※内容は予告なく変更する場合があります。ご了承ください。

活動場所：今治明德短期大学 大講義室 駐車場：明短内グラウンド



めいたんパーク終了後の「たんぽろ(食堂)」で昼食を食べていただけます。持ち帰りも大丈夫です。ぜひ、ゆっくり帰ってください。

★2月・3月 日程変更のお知らせ★

予定表では毎週開催の予定でしたが、都合により、下記のとおり日程を変更させていただきます。よろしくお祈りいたします。

2月 3日(水)	3月 3日(水)
10日(水)	10日(水)

月2回の開催となります。ご了承ください。

お問い合わせ先

今治明德短期大学 地(知)の拠点 推進室

TEL: 22-7366
E-mail: r-kimura@meitan.ac.jp 担当: 不村・峯雪

受付時間: 午前9時～午後4時(月～金 ※土曜祝日を除く)

めいたんパーク

時間
10:30~12:00
※10:00からあそびます



今月の予定

あつという間に1月が過ぎ、鬼の出番がやってきますね。
「おにはーそと!」「ふいはーうち!」と元気いっぱい豆を投げて
やっつけちゃいましょう!! めいたんパークにももしがしたら鬼が...
寒さに負けないで、ポカポカいっしょに楽しみませんか。
学生・スタッフ一同、首をながーくしてお待ちしています。

2月2日(火)

節分あそび

10日(火)

新聞あそび

3月3日(火)

ひなまつりごっこ

10日(火)

パラバルーン

4月からについて

4月から、火曜日に実施予定
です。日程や内容については後日
お知らせします。
ぜひ参加してくださいね。

場所 今治明德短期大学 大講義室

駐車場: 明德内グラウンド

対象 未就園児と
その保護者



お知らせ

めいたんパーク終了後、めいたんホール(食堂)で
昼食を食べていただけます。なんと毎回メニューが
違うんです!! 持ち込みも大丈夫です。
ぜひ、ゆっくりくつろいで帰ってくださいね。

お問い合わせ

今治明德短期大学 地(知)の拠点推進室

TEL: 22-7366 担当: 木村 峯雪

E-mail: t-kimura@meitan.ac.jp

受付時間: 午前9時~午後4時

(月~金 ※ 土日・祝日・年末年始除く)



平成26年度活動報告書
文部科学省 地（知）の拠点整備事業

今治明德短期大学
しまなみの生活と文化を守りそだてる人づくり・つながりづくり

imjc
IMABARI MEITOKU JUNIOR COLLEGE



〒794-0073
愛媛県今治市矢田甲 688
TEL 0898-22-7279 (代表)
0898-22-7366 (COC 推進室直通)
FAX 0898-22-7857
MAIL info@meitan.ac.jp